

地 理 教 科 書



東京帝國大學農科大學助教授  
東京帝國大學工科大學助教授

理 學 士

水 鐵 五 郎

著



東 京



金 港 堂 書 籍 株 式 會 社



烟鎖亞羅比亞海 雲迷亞非利加州  
客身遙在青天外 九萬鵬程一葉舟

地理教科書卷四

目錄

第三編 外國地理

第四章 亞非利加洲

第一節 總論

第二節 北部亞非利加

(一)モロッコ (二)アルジェリア (三)チュニス (四)トリポリ (五)埃及

第三節 サハラ沙漠及ビスダーン 二

(一)サハラ沙漠 (二)スダーン

第四節 東部亞非利加 一三

(一)アビシニア (二)エリトリア、オボック及びソ



マールランド (三)英領東亞非利加 (四)獨領

東亞非利加 (五)葡領東亞非利加 (六)英領中

央亞非利加

第五節 南部亞非利加 一五

(一)英領南部亞非利加 (二)獨領南西亞非利加

第六節 西部亞非利加 一八

(一)下ギニー (二)上ギニー (三)セネガムピア

第七節 島嶼 二一

(一)マダガスカル (二)セントヘレナ (三)カナ

リ諸島

第五章 北亞米利加洲 二三

第一節 總論 二三

第二節 加奈太 二八

第三節 亞米利加合衆國 三四

第四節 墨西哥 四五

第五節 中央亞米利加 四七

(一)グワテマール共和國 (二)サルヴドール共

和國 (三)ホンヂューラス共和國 (四)ニカラ

グワ共和國 (五)コスタリカ共和國 (六)英

領ホンヂューラス

第六節 西印度諸島 五〇

(一)バハマ諸島 (二)大アンチール諸島

(三)小アンチール諸島

第六章 南亞米利加洲 五四

第一節 總論 五四

第二節 西部諸國 五八



(一)コロムビア (二)デネズエーラ (三)エクア  
 ドール (四)ヘルー (五)ボリギア (六)チーレ  
 第三節 東部諸國 六六  
 (一)アルヘンチナ (二)ウルグワイ (三)パラ  
 グワイイ (四)ブラジル (五)グワヤーナ  
 第四編 結論世界に於ける日本) 七三  
 第一章 面積及び人口の比較 七三  
 第二章 世界に於ける貿易 七六  
 第三章 世界に於ける交通 七八  
 第四章 軍備の比較 八三  
 第五章 財政の比較 八四  
 第六章 日本と列國との關係 八八

第七章 世界に於ける日本帝國の  
 位置

附 錄

- 列國國勢一覽表
- 重要地名其他原字比較表



地理學とは地球の表面に於ける諸現象の配置に關する精密なる組織的の學問にして、進では人類と人類の四圍の境遇との間に起る關係に就て説明を爲すものなり。(ミル)

地理教科書卷四

理學士 脇水鐵五郎著

第三編 外國地理

第四章 亞非利加洲

第一節 總論

位置 亞非利加洲は、東半球の西部に在りて、北方は北温帯に、南端は南温帯に入り、中間の大部分は、熱帯に當り、而して北は地中海を隔てて歐羅巴洲に對し、南西は大西洋に臨み、東は印度洋と紅海とに面し、又スエース地峽に由りて、亞細亞洲に接す。面積は凡そ百九十萬餘方里ありて、六大洲中、第三に位す。洲内コンゴ自由國、リベリア、モロッコ等二三の獨立國あれども、過半は、歐羅巴諸國の領地又は保護領たり。



地勢 沿岸線は、甚だ單一にして、其の延長は、面積に比すれば、六大洲中最も少く、島嶼の主なるものを印度洋のマダガスカルとす。

地形も單純にして、一般に高原性なり。今其の趨勢に由りて、南北の二部に分つ。南半は、三角形の高地にして、周圍に山脈多く、南北に連亘して東岸のキリマンジャロに於て、高さ凡そ二萬尺に達す。北半は、其の南部にアビシニア、スダインの二高地あり。スダイン高地の北に名高きサハラの大沙漠あり、一體に丘地にして其の北西部には、アトラス山脈東西に連亘し、低地は、僅に西方沿岸及び北東沿岸に在るのみ。

河流は、著大なるものと雖も、交通の便を與ふること至つて少し、是れ其の下流は屢瀑布をなして水勢急激になり、又は沙礫填塞して船舶を通ずる能はざればなり。其の主なるも

のには、地中海斜面にナイル河、大西洋斜面にナイジャー、コンゴ、オラーニエの三河、印度洋斜面にザムベシ河あり。此の外内地の湖水に注ぐものも亦多し。湖水は甚だ多く、主なるものをギクトリア(五、〇〇〇)、タンガニーカ(二、一〇〇)、ニヤッサ(二、〇〇〇)、ツツド(一、七〇〇)とし、チツドの外は、皆南半高地の東部に在り。

氣候 氣候は、熱帯に屬する部殆ど本洲の五分の四を占むるを以て。一般に暑氣強く、季節は、雨季、乾季の二に分れ、中に就き熱帯中赤道を中央とせる大部は、暑氣甚だ強く、強雨屢降りて、空氣濕潤を極む。而して其の南北兩端は、空氣極めて乾燥にして、暑氣亦強し。溫帯地方の沿岸は、海洋の影響を受け、概して比較的氣候溫和なり。

天産物 熱帯地方の常として、植物の繁榮は、言ふに及ばず。





亞非利加洲の動物

椰子、棕櫚、綿、藍、甘蔗等廣く繁茂し、礦物は穿鑿未だ精しからざれど、南端地方を始めとして、其の他にも、黄金、廣く散布し、而して金剛石も亦有名なり。動物は、

北部に駱駝、駝鳥、南部に獅子、象、犀及び各種の獼猴、鱈魚、河馬等あり。又南端地方には、牛、羊の如き家畜盛に飼養せらる。住民は、總數凡そ二億あり、人種は、亞非利加、高加索、馬來の三人種に分る、其中亞非利加人種は、更に分れて、中部、南部の黑人バンダーン族、南部のブッシュマン族、ホッテントット族となり、高加索人種は、北部の埃及族エジプト族、バーバリー族、ハベシ族、亞拉比亞族、其の他各所に散在する歐羅巴諸國民となり、馬來人種は、ホグ族にして、マダガスカル島の西部に住す。而して亞非利加人種は、全人口の凡そ五分の四を占め、一般に農業、牧畜を業とすれども、喰人の陋習を有するものありて、多く拜物教を信奉す。されど北部には、一般に回教行はる。言語も各種に分れたれど、最も廣く行はるるは、亞拉比亞語とす。

交通 鐵道は、南部地方及びナイール河、コンゴ河等の沿岸に



亞非利加の探検家として有名なるはリギンゲ、スタイン、二氏とす

多少敷設せられたるのみにして、一般の交通甚だ不便なり。殊に内地に至りては、大沙漠、大樹林横はり、加ふるに未開の蠻民徘徊するを以て、行旅の困難、言語に絶す。従つて未だ探検を経ざる地理不明の箇處多し。されど他の大陸との航通は、稍發達し汽船の定期航海あり。

### 第二節 北部亞非利加

#### (一) モロッコ

モロッコは、本洲の北西隅を占むる獨立王國にして、面積三萬六千餘方里あり。域内西部に低地あれども、其の他は、山脈沙漠に屬し、地形一般に高峻にして、氣候頗る良好なり。住民は總べて五百萬人種は、主にバーバリー族、並びにバーバリー族と外國人との雜種なるムーア族より成る。宗教は一般に回教を奉じ、君主は政治と宗教との最上權を併有す。重なる

アトラス山脈

生業を牧畜耕作とし、産物中、有名なるモロッコ皮は、書籍の表紙等に用ひらる。首府をフェースと稱す。

#### (二) アルジェリア

アルジェリアは、モロッコの東に在り、地中海を隔てて、佛蘭西と相對す。域内に大小アトラス山脈平行して、地形概ね高原に屬し、氣候は佳良なるを以て著る。産物にはアルフ、草、葡萄等ありて、佛蘭西の殖民地たり。重なる都會をアルジールと云ふ。

#### (三) チュニス

チュニスは、アトラス山脈の東端、カベス灣に臨める王國にして、佛蘭西の保護地なり。穀類、橄欖、椰子の産額多く、又絹布、毛布等の製造業行はる。首府をチュニスと云ひ、其の附近に、カルセーシの舊趾あり。



(四) トリポリ

トリポリは、チュニス及びアルジェリアの南東に位し、土耳其の屬地たり。首府トリポリは、隊商のサハラに赴く門戸として著名なり。産物は小麥、アルフ、草等とす。以上モロッコ乃至トリポリの四部を總稱して、バーバリー地方と云ふ。

(五) 埃及

地勢 埃及は本洲の北東隅を占むる地方にして、面積六萬六千餘方里あり。暑氣強く、降雨稀に、ナイル河沿岸を除く外は、一般に不毛の沼澤、沙漠等に屬す。ナイル河(一、三九〇)は世界第二の長流にして、毎年洪水汎濫し、肥沃なる泥土を殘すを以て、其の沿岸は、地味豊饒を極め、農産多し。此の國の、夙に文明なりしことも偶然に非ざるなり。

住民、生業 住民は、總數凡そ一千萬にして亞拉比亞族、埃

ナイル河

スエー  
運河

カイロ

アレク  
サンドリア

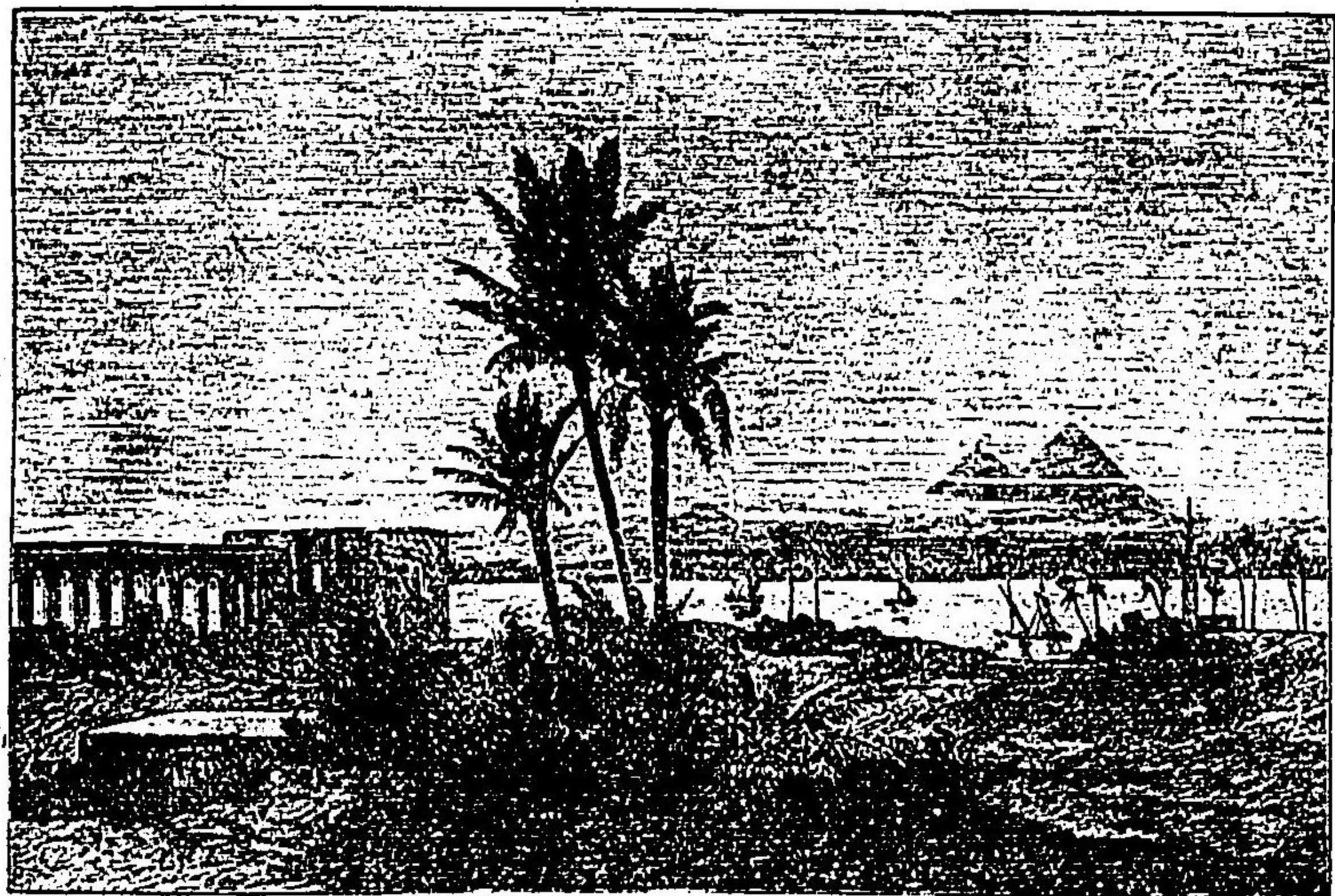
及族等より成り。回教最も廣く行はれ、基督教之に次ぎ、教育は未だ盛ならず。政治は、君主獨裁にして、名義上、土耳其の主權の下に在れども、實權は全く英吉利の握る所となれり。生業は、農業を主とし、棉花、小麥、砂糖等の産額多大なり。貿易は英吉利、佛蘭西、土耳其等との間に行はれ、我が國へは綿を輸出し、我が國よりは米を輸入す。

交通 交通は、ナイル川の水利を始めとし、鐵道運河の設ありて、頗る便利を極む。スエー運河は、紅海と地中海とを連絡するものにして、佛人レセップ氏の計畫せし所なり。

都邑 首府をカイロ(五七)と云ひ、ナイル河の右岸に位し、本洲第一の大都なり。此の地の附近には、古代埃及人の設計に係る金字塔、スフィンクス等の偉大なる建築物あり。アレクサンドリア(三二)はカイロの北西に在る此國主要の貿易港に



スエーデンは我が横濱を距ること凡そ八千哩



カイロ市前の景

して、地理學の元祖トレミー氏の生地なり。スエーデンは運河の南端に在りて、其の北端なるポルト・サイドと共に、船舶盛に出入す。ポルト・サイドは我が郵船會社汽船の寄港する處なり。

埃及スダーン及びヌビア

此の二地域は埃及の南方ナイル河の流域に於ける地方にして、面積十六萬餘方里、人口一千餘萬あり。埃及スダーンは、ヌビアと共に埃及主權の下に在りしが、近來内

亂起りて、英吉利兵の鎮定せし以來、埃及は、實際上、其の主權を失ひたり。カ  
ルツームは、内亂の際、ゴルドン將軍が、蠻民重圍の中に戰死せし地にして、  
隊商の集合地とす。此の地の遙か南に位するフシヨダは英國の占領せる要  
地たり。

### 第三節 サハラ沙漠及びスダーン

#### (一) サハラ沙漠

サハラ沙漠は、西、大西洋岸より夏至線に隨つて、東、ナイル河  
谷に至る世界第一の沙漠にして、面積殆ど本洲の五分の一  
強を占む。丘陵處々に起伏し、地勢一様ならざれども、概ね不  
毛の沙地に屬す。河底を露出せる河川、處々に存し、又往々オ  
アシスと稱して、泉水を出し草木を生ずる處あり、殊にリビ  
ア沙漠に多くして、隊商の休憩處たり。隊商は、漠南と漠北と  
の産物を交換するを目的とす。氣候は寒暑の差強く、城内北

オアシス





スシアオ

西部は、西班牙に屬し、東部は、英吉利の權力範圍に屬すれども、其の他は、大抵佛蘭西の略取せる所たり。

(二) スダーン

人のスダーン族なり。域内埃及スダーン、ナイジャー地方、英領

スダーンは、西は、セネガムビアの東より、東はアビシニアに至る、サハラ沙漠の南一帯の地方なり。熱帶中、多雨帶に位し、河湖多く、土地肥沃、植物長大にして、殊に木綿の成長を盛なりとす。住民は、大抵黒

スダーン)は、英吉利の權力範圍内に在れども、其の他は、概ね佛蘭西の經略せる所とす。

第四節 東部亞非利加

(一) アビシニア

アビシニアは、ナイル河の支流なる青ナイル河等の水源地にして、面積凡そ三萬方里、人口三百餘萬あり。毎年六月より九月まで、定時の強雨あり、是をナイル河洪水の時とす。氣候天産は、處に由りて種々なれども、主なる産物は、埃及と同じく、穀物、綿、甘蔗等なり。土人は、ハベシ族にして、古來基督教を奉ず。此の國は、元伊太利の保護國なりしが、近年伊太利と戦ひて、之に勝ち、君主獨裁の獨立國となれり、首府をゴンダルト云ふ。

(二) エリトリア、オボク及びソマリーランド



アビシニアの東、紅海沿岸に伊太利領エリトリア及び佛領オボックあり。又アビシニアの南東にソマールランドと稱する地方あり、其の亞丁灣に面する一部は、英吉利の保護領にして、印度洋に瀕する一帯は伊太利の保護に屬す。

(三) 英領東亞非利加

英領東亞非利加は、ソマールランドの南西に位する地方にして、其の主要なる都會を、モンバサ及びザンシバル保護國のザンシバルとす。

(四) 獨領東亞非利加

獨領東亞非利加は、英領の南に在り、其の北東境にキリマンジャローの高峰聳ゆ。重なる都邑をダル・エス・サラームとす。

(五) 葡領東亞非利加

葡領東亞非利加は、獨領の南に位する狹長の地方にして、モ

キリマンジャロー峰

ザムベシ河  
アザク  
トリ  
瀑布

ザムベシ河に臨む。國の中部を流るるザムベシ河(六〇〇)は、瀑布を爲すこと多く、中にもギクトリア瀑布は、高さ三百尺以上に達す、主要なる都會をモザムビーケとす。

(六) 英領中央亞非利加

英領中央亞非利加は、獨領の南西に當り、ニャッサ湖とザンベシ河の上流との間を占むる地域なり。

第五節 南部亞非利加

(一) 英領南部亞非利加

英領南部亞非利加は分れてトランスブール、オラーニエ、喜望岬等の殖民地と、保護領とより成る。

トランスブール殖民地 トランスブール殖民地は、北はリムポーポ河、南はブール河を以て限られ、面積凡そ二萬方里、人口百萬あり。採金業の盛なること世界一二に位し、首府



をプレトリーアと稱す。ヨハンネスブルグは、産金地方の中心に在りて、其の繁榮却つて首府に勝れり。

オラーニエ殖民地 オラーニエ殖民地は、グール河とオラーニエ河(五〇〇)の上流との間に位し、面積凡そ八千方里、人口二十萬あり。主なる産物には、羊毛、金剛石あり。首府をブレムフンタインと稱す。此の殖民地は、トランスヴール殖民地と共に、和蘭殖民者の子孫ボーア人の建てたる、オラーニエ自由國、南亞非利加共和國にて、共和制の獨立國なりしが、近年英吉利と戦を開き、久しく屈服せざりしも遂に力盡きて、近頃同國の殖民地たるを承諾し、其の局を結びぬ。

喜望岬殖民地 喜望岬殖民地は本洲の南端に位しオラーニエ河の下流及びマルポ河を以て北境とし、面積三萬七千方里、人口百五十餘萬あり、世界第一の金剛石産出地を有

オラーニエ河

キムバリ

す。首府をケープタウンと云ひて、南西岸に在り。北部のキムバリは、金剛石産出地の中心として知らる。

ナタール殖民地及びバスターランド殖民地 此の二殖民地は共に喜望岬殖民地の北東に在り。

ローデシア及びベチュアナランド 此の二地方は、英領中央亞非利加と、喜望岬殖民地等との間に位する英吉利の保護領にして、域内のベチュアナランドには、カラハリ沙漠あり。英吉利は喜望岬殖民地より鐵道を北進せしめ、埃及のカイロよりナイル河に沿ひて、南進する鐵道と連絡し、以て亞非利加を縦貫せんとする計畫にして、既にローデシア迄開通し、又縦貫電信は既にタンガニーカ湖畔まで達せり。

## (二) 獨領南西亞非利加

獨領南西亞非利加は、英領の西に當り、大西洋に臨める地方



ホッテント  
平均身長  
五尺に  
満たず



ホッテント

にして、南境にオラーニエ河あり。沿岸地方に住するホッテント族は、身長低く、筋骨、才能人類の最下等なるものにして、蝸牛、芋蟲等を食となす。

### 第六節 西部亞非利加

西部亞非利加は、北はサハラ沙漠の西部より、南は獨領南西亞非利加に至る地方にして、其の中サハラ沙漠と、スダーンとの部は、便宜上既に上に説きたるが、其他は分れて下ギニー、上ギニー、セネガムビアの三部となる。

#### (一) 下ギニー

下ギニーは、獨領南西亞非利加の北より、カメルーン山脈に至る地方の總稱にして、ギニー灣に臨む。重なる産物には、象牙、護謨、椰子油、珈琲等あり。土人は謂はゆるバンツ族にして

コンゴ河



バツン族の風俗

て、拜物教を奉じ、喰人の陋習を有するものあり。域内分れて、アンゴラ(葡領)、コンゴ自由國、佛領コンゴ、獨領カメルーン等となれり。  
コンゴ自由國  
凡そコンゴ河流域の大部を占め、面積十五萬方里、人口三千餘萬あり、少許の白人の外は、皆バンツ族に屬す。コンゴ河(一、二、三〇)は、赤道の多雨密林の地に發源して、水量に富み、上流は漕運の便あれども、下流は急流なるを以て、沿岸に鐵道を敷設して、其の不便を補へり。此の國は、萬國自



由貿易地にして、白耳義王の統治する所とす。首府をボマと云ひて、コンゴ河口に在り。

(二) 上ギニー

ナイジャ  
ー河

上ギニーは、ナイジャール河(一、〇〇〇)の河口附近より、シーラレオーネ岬に至る地方の總稱にして、氣候甚だ暑く、空氣濕潤なり。土人は概ね黒人スダイン族にして、多くの種族に分れ、主なる産物を椰子油、護謨等とす。域内にリベリア共和國及び英吉利、佛蘭西、獨逸の領地あり。此等三國の領地は、即ち奴隸海岸(英、佛、獨)にて分領す。黄金海岸(英領)、象牙海岸(佛領)、シーラレオーネ(英領)より成る。

リベリア、リベリアは、元穀物海岸と稱し、解放せられたる黒人の保護地として建設せる共和國なり。首府をモンロピアと云ふ。

(三) セネガムビア

セネガムビアは、セネガル、ガムビア兩河の流域にして、暑氣酷だしく健康に適せず。土人は黒人に屬し、主なる産物を亞拉比亞護謨とす。域内分れて、佛領ギニー、葡領ギニー、ガムビア(英領)、セネガル(佛領)となれり。

第七節 島嶼

島嶼には、印度洋にマダガスカル(佛領)、マスカレニアス諸島(英、佛分領)等あり。大西洋にセント・ヘレナ(英領)、エルデー岬諸島(葡領)、カナリー諸島(西領)、マデラ、アゾールス(葡領)等あり。

(一) マダガスカル

マダガスカルはモザムビーケ海峡に由りて、大陸より分たれ、地勢は山多く、天産には、鑛物少からず。住民は、西部にバンツ族、東部にホブ族多し、ホブ族は基督教を奉じ、嘗て全島



を統一して、王國を建てたることあり、首府をアンタナナリ  
ーブと云ひ、島内の良港をタマタゴと云ふ。

(二) セントヘレナ

セントヘレナは、アンゴラの西方に在る一小島にして、ナポ  
レオン一世が終焉の地たるを以て著る。

(三) カナリー諸島

カナリー諸島は、モロッコの西方に位し、カナリー島の本土な  
り。氣候溫和、地味肥沃なるを以て、幸福島の名あり、此の諸島  
は、火山島にて、一萬二千尺以上に達する活火山あり。

第五章 北亞米利加洲

第一節 總論

位置 亞米利加洲は、四百年前に發見せられたる新世界に  
して、西半球に位する大陸なり。北亞米利加洲は、此の大陸の  
北半部を占め、北寒帶、北溫帶、熱帶に跨がりて、凡そ三角形を  
なし、北は北氷洋、西は太平洋に臨み、南は太平洋、大西洋に面  
し、又其の一部は、南亞米利加洲に連なり、西は大西洋に瀕す。  
面積百四十萬方里にして、六大洲中、第三に位し、分れて左の  
諸地域となる。

加奈太 亞米利加合衆國 墨西哥 中央亞米利加  
西印度諸島

地勢 沿岸の屈曲は、北氷洋と大西洋との沿岸に多く、太平  
洋沿岸には少し、北氷洋沿岸には、ハドソンの大灣及び幾多



の島嶼あれども、大氷塊漂流するを以て、殆ど交通の用を爲さず。大西洋沿岸には、ラブラドル半島とノヴスコシア半島と相對し、セント・ローレンス灣を抱き、灣口にニューファンランド島あり。又フロリダ半島とユカタン半島と相對して、墨西哥灣を擁し、フロリダ半島の南西には、西印度諸島連なりて、カリブ海を抱けり。太平洋沿岸は、北にアラスカ半島の突出せると、中央にカルフォルニア半島の、同名の灣を抱けるとに過ぎず。島嶼には、アリューシアン諸島、ブングー、グー島等あれども、共に小なり。

地形は東西に高くして、中央に低く、西部高地は、南北亞米利加を貫通するコルチレーラ山系の一部に當り、ロッキー山脈、カスケード山脈、シーラネグーダ、シーラマードレーの諸山脈にて形成せられ、太平洋岸に向ひて急に傾斜し、頗る高峰

火山に富めり。東部高地は、アリゲイニ山脈に由りて形成せられ、西部高地に比しては甚だ低し。此の兩高地の間は、大低地にして主にミシシッピ河の流域に屬す。

本洲は河湖頗る多く、河川は、概ね水深くして多くの支流を有せり、而して地勢の結果に由り、西部高地の東方に、大河多し。其の重なるものには、北氷洋斜面に、マッケンジー河、ネルソン河、太平洋斜面に、ユーコン河、コロラード河、大西洋斜面に、ミシシッピ河、セント・ローレンス河あり。湖水は、概ね低地地方の北部に集り、中に就きて最も有名なるは、スーペリオル、ミシガン、ヒューロン、イーリ、オンタリオの五大湖とす。

氣候 氣候は、處に由りて一樣ならず、低地地方は東西に連亘する山脈なきに由り、大陸性氣候を有し、歐羅巴同緯度の地に比すれば寒暑共に強く、東岸は寒流の影響を蒙るを以



て、西岸に比して気温低度にあり。西岸は背後に高山脈あると、黒潮の影響を蒙るとに由り、概ね温和なれども、南部は黒潮及び灣流の影響を受くると、土地大抵熱帯に位するるとに由り、暑氣頗る強し。雨量は沿岸と南部とに頗る多けれども、西部高地は甚だ少くして、空氣乾燥なり。

**天産物** 天産物中の主なるものは、植物と礦物となり、植物は、西部高地は、樹林鬱茂して良材を産し、南部低地の耕作地は、種々の農作物繁榮して、主に小麥、棉花、馬鈴薯等を出す。礦物は、其の種類多く、中にも金、銀、鐵、石炭、銅、石油等の産額は、多大なるものなり。又魚類は其の海中甚だ豊富にして漁業盛に行はる。動物中の特産には、ハム、ミンダウ、響尾蛇、海狸等あり。家畜は概ね嘗て舊世界より移殖せるものに係り、現今は其の飼養頗る盛大なり。

**住民** 住民は、總數九千萬、面積は殆ど我が國に十四倍すれども、人口は二倍に達せず。人種は分れて亞米利加人種、蒙古人種、高加索人種、亞非利加人種の四となる。亞米利加人種は



俗風の族 | モキスエ

又亞米利加印度人とも云ひて、元來の土人なれども、今は纔に深山荒野に徘徊して、漸く消滅に近づかんとし、蒙古人種に屬するエスキモー族は、北方一帯の地に居住し、高加索人種に屬する歐羅巴各國の移住民及び其子孫は、特に英吉利







ナイアガ  
ラ瀑布

セント  
ローレン  
ス河

大熊湖

マッケン  
ジー河

於て、有名なるナイアガラ瀑布をなす。此の瀑布は、高さ凡そ百八十尺幅凡そ三千六百尺に及び、實に天下の壯觀なり。而



加奈太の靴滑

して其水は、終にセント・ローレンス河となりて同名の灣に入る。此の外の主なる湖水及び、河流には大熊湖(二、三五〇)大奴隸湖マッケンジー(八二〇)サスカチワン(六〇〇)の兩河等あり  
氣候 氣候は地形上、一般に大陸性にして、激變すること甚だしく、又北部に、進むに従ひ、寒氣益酷烈となる。されど西部ロッキー山陰の高地は、氣候溫和に、降雨多量なる

を以て、耕作に適する地多く、又森林の繁茂盛なり。

住民 住民は、總數五百餘萬にして、猶頗る稀薄なり、其の中英吉利人の子孫最も多く、佛蘭西人の子孫之に次ぎ、従つて言語も重に英語行はれ、佛語之に次ぐ。此の外に亞米利加印度人あれども、其の數甚だ少し、宗教は新舊兩教あれども、前者盛に行はれ、教育は大に進歩し、各大都會には概ね大學の設あり。

政治 全土英國の領地に屬し政治上、行政部の長として總督を置き、立法部の機關として、上下兩院より成れる議會を設く。

生業、産物 生業の主なるものは、林業と耕作にして、木材、穀類殊に小麥を重要な産物とす。牧畜業も之に次ぎて盛大なり。水産は西岸の鮭、東岸の鱈を主とし、鑛産は、石炭、金、白銅、銅



鐵、石油を主とす。最近の發見に係るクロンダイク金鑛は、ユ



加奈太の木材

ーコン河の上流アラスカの境に近き處に在りて、砂金の採集極めて盛なり。此の外毛皮も、亦主要なる産物の一たり。貿易は近時著しく發達して、盛に英吉利及び亞米利加合衆國と取引を行ひ、又我が國よりは、多く茶米を輸入し、我が國へは鹹魚、木材を輸出す。

交通 交通は、有名なる加奈太太平洋鐵道の域内を横斷して、太平、大西の兩洋を連絡するあり、又數多の河湖運河の水利

オッターワ

モントリ  
オール

を與ふるありて、頗る便利を極む。  
都邑 首府をオッターワと云ひて、セント・ローレンス河の支流



ニューファンドランドの漁獵

なるオッターワ河畔に位す。此の川の本流に會する處に在るモントリオールは、(三二)加奈太第一の大都なり。是より本流を下れば河口にクキベ、ク市あり、形勝の地を占むるを以て、其の名著る。西岸のヴンクイーヴは、金及び鮭の産出を以て有名なるフレイザー河口に位し、西岸唯一の良港にして、船舶の出入夥しく、我が國の領事館あり。

ニューファンドランド 本島は、對岸のラブラドルと共に、英國の直轄殖民地にして、世界三大漁場の一に數へられ、鱈の漁獲最も盛に、隨つて肝



油の製造亦多し。

グリーンランド グリーンランドは、世界第一の大島にして、大部分寒帯に在り。寒氣甚だ強く、内部は、氷河一面に掩ひ、夏季僅に西岸に蘚苔類を生ずるの外は植物を見ず。住民は一萬餘人にて、エスキモー人大部を占め、漁業及び海豹捕獲に従事し、丁抹の管轄を受く。

### 第三節 亞米利加合衆國

位置 亞米利加合衆國は、通常略して、合衆國とも又米國とも云ひ、北亞米利加の中央部を占むる大國にして、本洲の西北隅なるアラスカも、亦此の國の一部たり。面積殆と六十萬方里、凡そ我が國の二十二倍に當る。

地勢 沿岸中大西洋沿岸は、稍屈曲してデラエーア灣、チエサピーク等の小灣あれども、墨西哥灣沿岸は低平にして、概ね沼澤に屬し、又太平洋沿岸は、大抵斷崖相連なりて、出入に乏

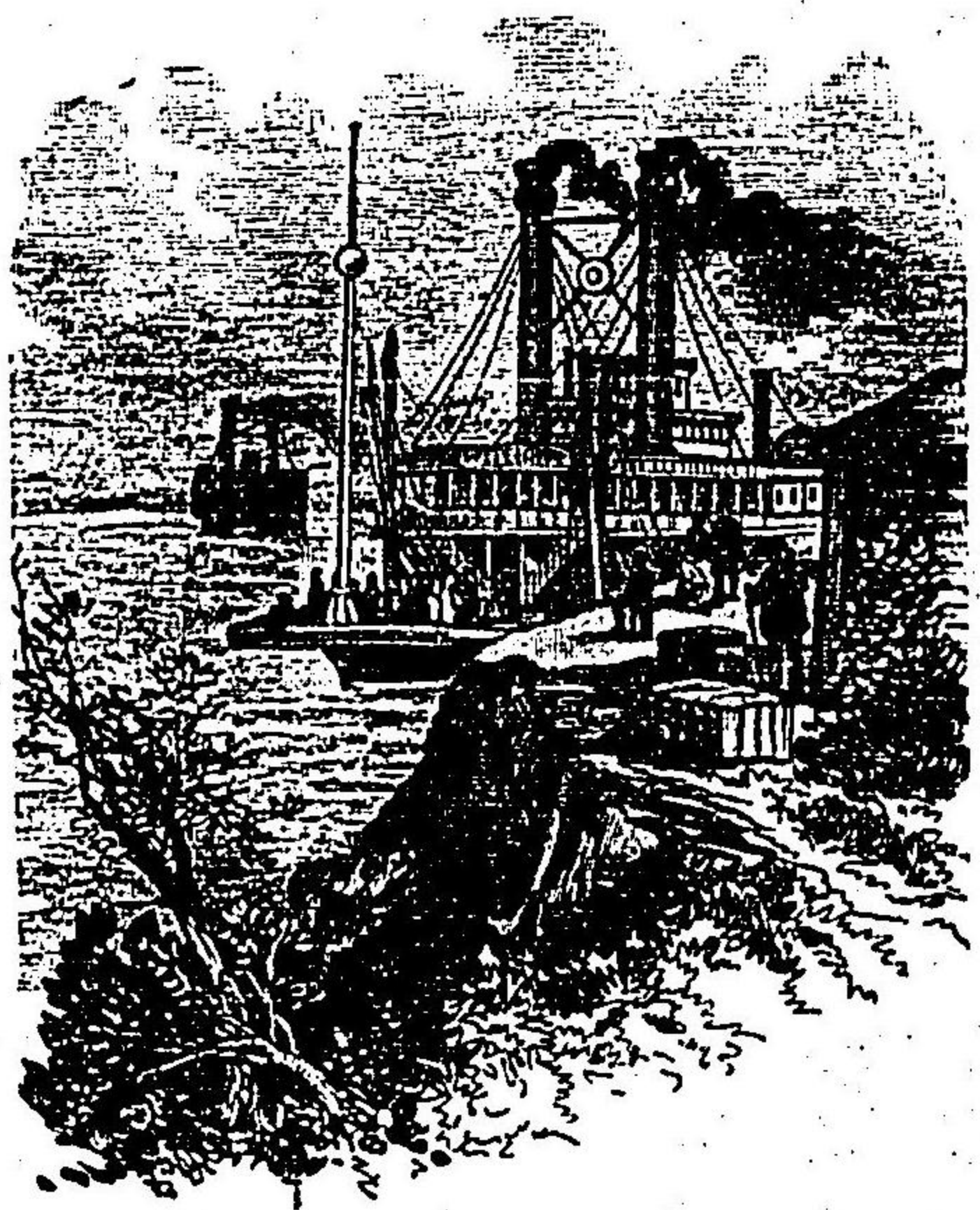
ロッキーマウンテン、カスケード山脈等

しく、良港少し。

ミシシッピ河等

地形は、分れて西部、東部の兩高地、中央大低地及び東西兩沿岸地方の五部とす。西部高地は、ロッキーマウンテンと、カスケード山脈と、シーラネグーダ山脈とに擁せらるる大高地にして、中央に大鹹湖を湛ふ。西部高地はアリゲイニ山脈に由りて形成せられ、中央大低地は即ちミシシッピ河の流域に屬する大低地にして、東西兩沿岸地方は、兩高地の外方に連なる狹長なる低地なり。河流は頗る多く、其の長大なるものには、墨西哥灣斜面にミシシッピ及びリーオ格蘭デ、デルノルテ(七三〇)の二大河あり、太平洋斜面に、コロラード(八二〇)、コロムビア(五七〇)の兩河あり。ミシシッピ河は、北境に在る數多の湖水より發し、南流して墨西哥灣に注ぐ大河にして、ミッスーリ、オハヨー、アルカansas等幾多の支流を有し、其の流域極めて





河ピッシシミ

廣く、灌溉漕運の便甚だ大なり。此の河は、ミッソーリ河を加ふれば、長さ凡そ一千六百里に達し、我が信濃川に十五六倍して、世界第一の長流となる。湖水には加奈太との境に、五大湖ありて、其の

一なるミシガン湖は、全く此の國に屬す。

氣候 氣候は、處に由りて一樣ならざれども、内部は大抵大陸性氣候なり、殊に北西部は、寒氣甚だ強く、南方沿岸は暑氣強くして濕潤なり。其の他太平洋岸の地方は大西洋岸の地に比すれば、氣候一層溫和なることは、前に既に説けるが如

し。

住民 人口は、總數七千五百餘萬ありて、本洲全人口の大部分を占むれども、面積に比すれば、尙甚だ稀薄にして、平均我が國の十分の一に達せず。されど各國より移住するもの年々多きを加ふる故に、近年俄に増加しつつあり。人種は住民の大部分は英吉利、獨逸、佛蘭西等歐羅巴諸國よりの移住者、又は其の子孫にして、國內一般に英語行はる。其の外黑人は南東部に、亞米利加印度人は中部及び西部高地に、日本人、支那人は概ね西部沿岸に住す。而して近來支那人の移住を禁止し、又我が國人の移住をも歡ばざる傾向あり。宗教は、新教最も盛に行はれ、舊教之に次ぎ、モルモン教も、亦多少行はれ、教育は一般に盛なり。住民は、性質溫和勤勉にして自由平等を愛し、貴族を置かず、曾て我が國を誘導して開港せしめたる

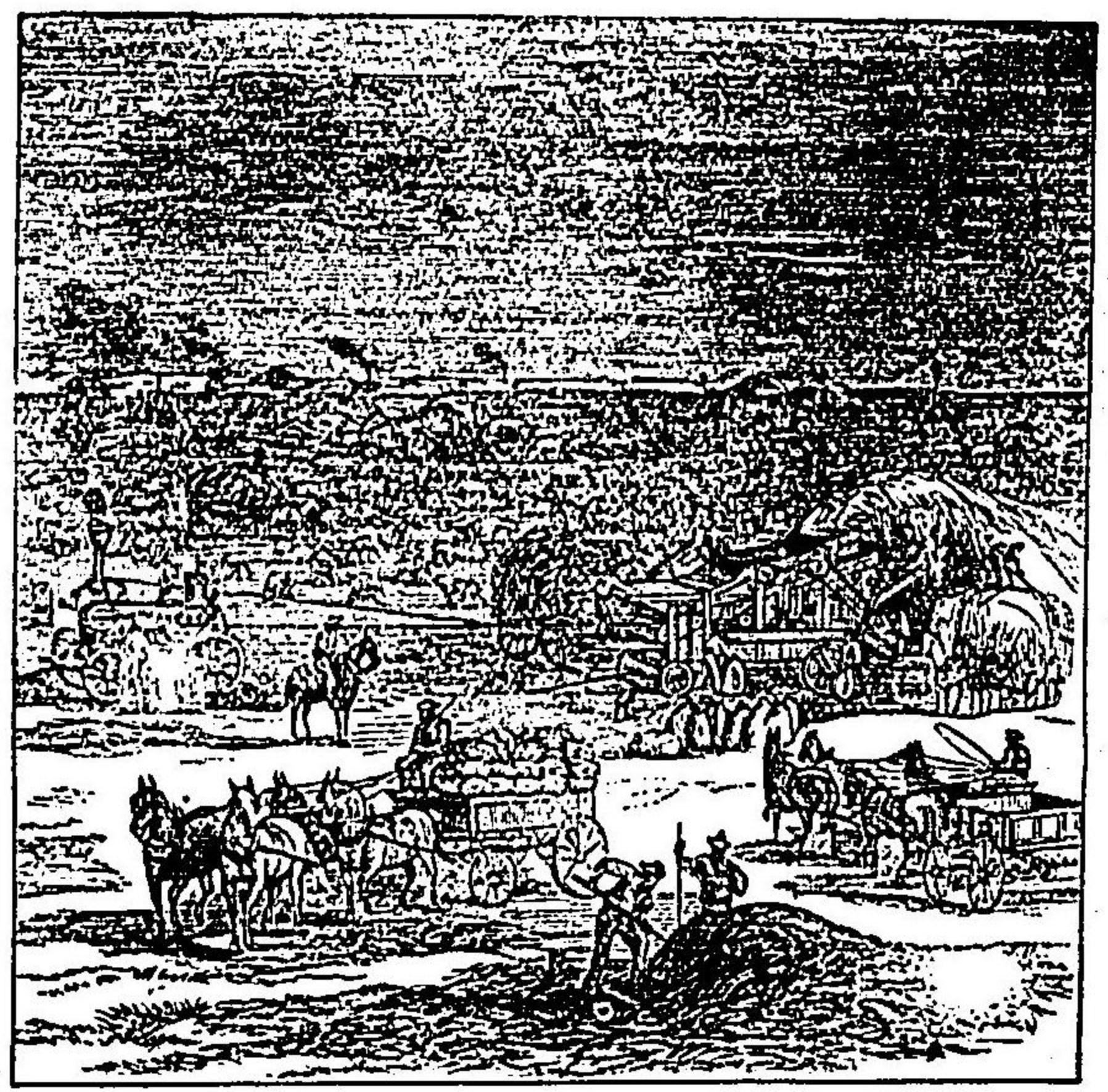


合衆國に次ぎて鐵の産地多きは、英、獨逸、佛、西、日、本、等なり。多きは西、佛、獨逸、佛、西、日、本、等なり。多きは西、佛、獨逸、佛、西、日、本、等なり。

は、實に此の國人なり。  
**政治** 政治は、聯邦共和政治を行ふ。行政部の長は大統領にして、四年毎に改選し、立法部は、元老院と代議院とより成り、而して國內四十五州、六地方(布哇地方を除く)一區に分れたり。陸軍は、兵數僅少なれども、海軍は近時頗る擴張せられたり。  
**生業、産物** 生業中、農業は第一に位し、東海岸及び南海岸の低地は棉花地方、ミシシッピ河及びミッソーリ河の流域は玉蜀黍地方、ミシシッピ河、レッド河の上流流域は小麥地方として著はれ、中に就き小麥の産は世界中第一位を占め、棉花の産も亦世界全産額の過半を占む。又牧畜は盛に西部高地に行はれ、漁業は大西洋沿岸の中部に行はる。鑛産は、頗る豊富にして鐵石炭は其の産額に於て、世界第一に居り、主なる産地

合衆國に次ぎて鐵の産地多きは、英、獨逸、佛、西、日、本、等なり。多きは西、佛、獨逸、佛、西、日、本、等なり。多きは西、佛、獨逸、佛、西、日、本、等なり。

カリフォルニアの巨樹は有名なり。



小麦の收穫

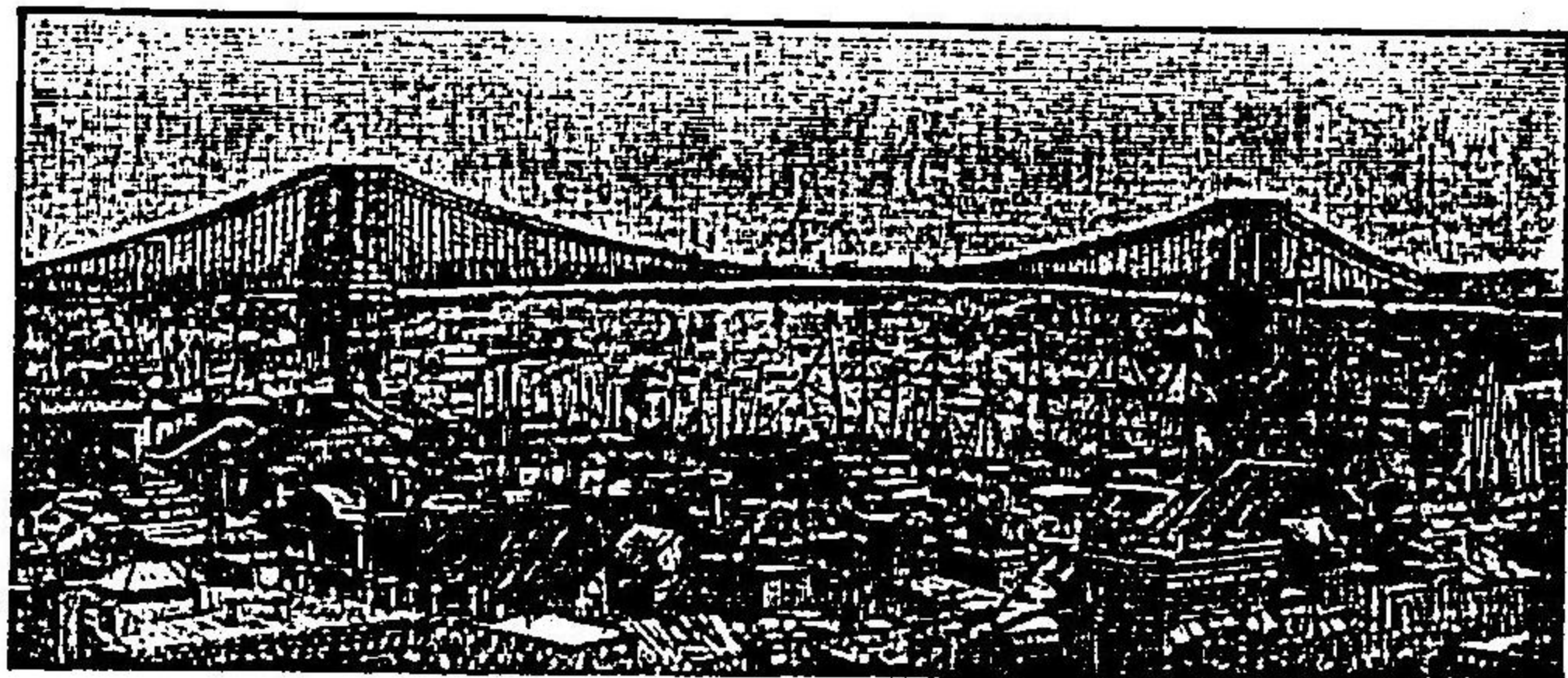
を東北部のペンシルヴァニア州、中部のミッソーリ州とし、銅の産額も亦世界第一にして、世界全産額の過半を出し、又ペンシルヴァニア附近及びカリフォルニア州は石油産地として著れ、其の産額は露西亞の石油と伯仲して、世界需用高の殆ど半額に近き量を供給し、シーラネグラーダ山脈は、金銀及び水の貴金屬に富み、且森林多きを以て名あり。金と水銀との産額に於ても、亦世界中有名なり。爾のみならず斯く種々の



紐育

物産に富むを以て工業頗る發達し、中にも最も繁榮なるは  
 東北部の製鐵業と、南部の綿糸紡績業となり。外國貿易亦盛  
 にして、重なる輸出品は、棉花、小麥、玉蜀黍、麵粉、煙草、肉類、石油、  
 鐵器等とし、重なる輸入品は、珈琲、砂糖、絹布等とす。又此の國  
 は、我が國第一の華客にして、我が國より茶、生絲等を輸入し、  
 我が國へ繰綿、石油、麥粉、鐵器等を輸出す。  
**交通** 交通機關は、大に完備し、中にも鐵道の發達最も著し  
 く、大北、大南鐵道等の太平洋と大西洋とを連絡する線  
 路數條あり。猶其の他にも鐵道縱横に敷設せられて總計凡  
 そ二十萬哩に達し、歐羅巴鐵道の總計よりも多く、一國の延  
 長としては世界第一なり。又海運業も頗る盛に行はる。  
**都邑**  
**大西洋沿岸地方** 紐育は、ハドソン河口に位し、人口凡そ

ボストン



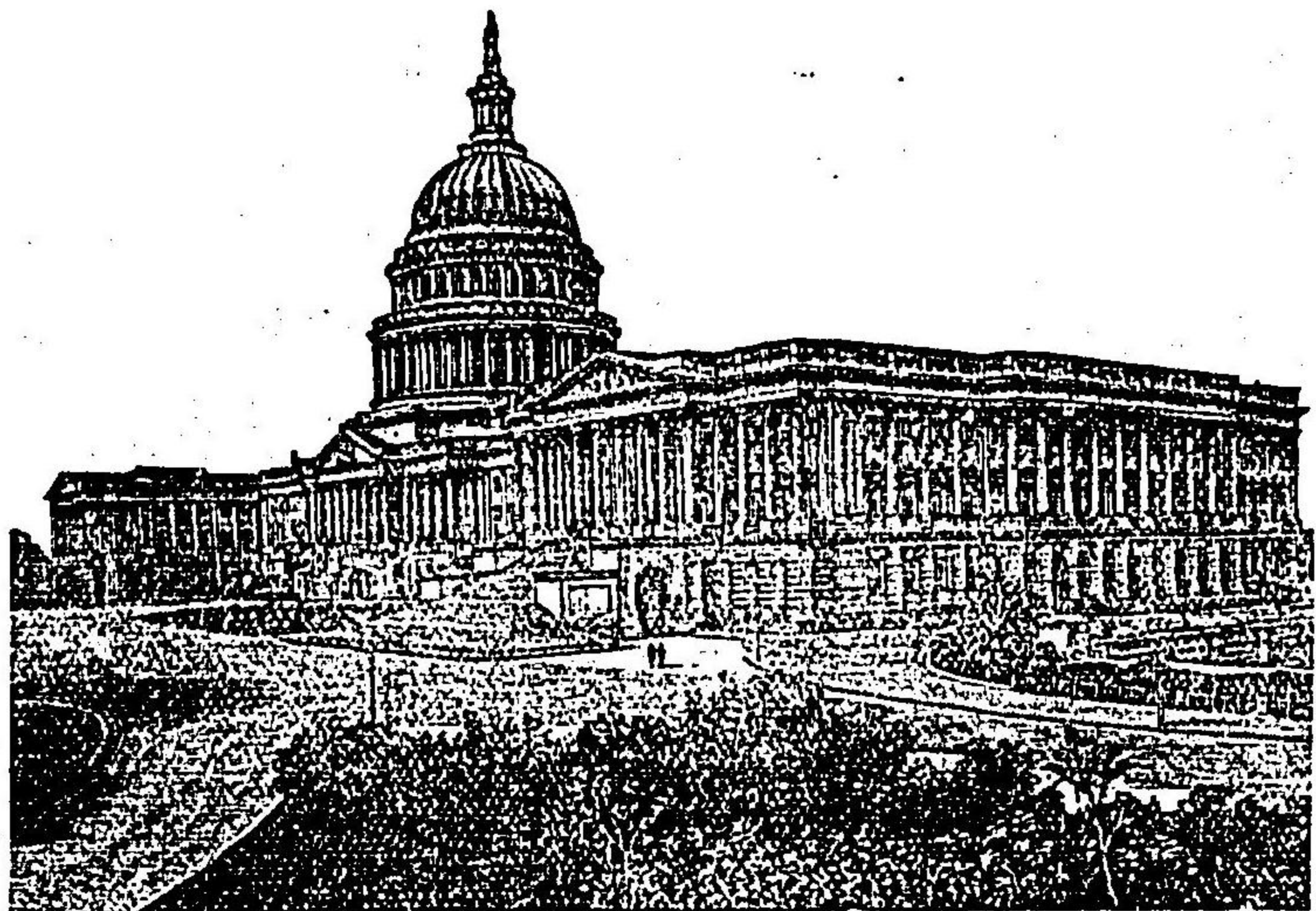
紐育の吊橋

三百五十萬ありて、本洲第一、世界第二の  
 大都會なり。市中の建築、一般に宏壯にし  
 て最も高きものは殆と三十階に至り、市  
 の一部なるロング島のブルークリンと  
 の間に架れる吊橋は、世界第一の長橋に  
 して、長さ一海里に達す。商業、工業共に繁  
 榮を極め、中にも商業は本洲第一にして、  
 貿易盛に行はれ、船舶の出入繁く、我が總  
 領事館は此に在り。又此の地のスタンダ  
 ード石油會社は、世界第一にして近來我  
 が越後地方へも業務を擴張せり。紐育の  
 北東に位するボストン(五六)は獨立戰爭開戦の地として有  
 名なれど、今は合衆國第一の文雅の地にして、郭外にハーヴ



フヒラ  
デ  
ル  
フ  
ヒ  
ア

バル  
チ  
モ  
ー  
ア



堂事議會國國衆合

イ  
ト  
大  
學  
あ  
り  
。  
フ  
ヒ  
ラ  
デ  
ル  
フ  
ヒ  
ア  
(一  
三  
〇)  
は  
紐  
育  
の  
南  
西  
に  
在  
り  
、  
有  
名  
な  
る  
獨  
立  
閣  
の  
所  
在  
地  
に  
し  
て  
、  
當  
國  
第  
一  
の  
工  
業  
市  
た  
り  
。  
其  
の  
近  
傍  
に  
は  
、  
石  
炭  
坑  
製  
鐵  
所  
多  
く  
、  
又  
書  
籍  
出  
版  
業  
の  
盛  
大  
な  
る  
を  
以  
て  
著  
る  
。  
バ  
ル  
チ  
モ  
ー  
ア  
(五  
〇)  
は  
、  
チ  
ェ  
サ  
ピ  
ー  
ク  
灣  
頭  
に  
在  
り  
て  
盛  
に  
棉  
花  
、  
煙  
草  
等  
を  
輸  
出  
し  
、  
ワ  
シ  
ン  
ト  
ン  
(二  
八)  
は  
バ  
ル  
チ  
モ  
ー  
ア  
の  
南  
に  
接  
し  
、  
此  
の  
國  
の  
首  
府  
に  
し  
て  
、  
其  
の  
名  
を  
初  
代  
大  
統  
領  
の  
名  
に  
取  
り  
、  
國  
會  
議  
事  
堂  
の

シン  
シ  
ン  
ナ  
ー  
チ  
三  
二  
は  
オ  
ハ  
ヨ  
ー  
河  
の  
右  
岸  
に  
在  
り  
て  
、  
豚  
肉  
取  
引  
の  
盛  
な  
る  
こ  
と  
、  
世  
界  
無  
比  
な  
り  
。  
ル  
ー  
イ  
ス  
ギ  
ル  
の  
近  
傍  
に  
マ  
ム  
モ  
ス  
洞  
あ  
り

シ  
カ  
ー  
ゴ

セ  
ン  
ト  
・  
ル  
ー  
イ  
ス

ニ  
ュ  
ー  
・  
オ  
ル  
レ  
ア  
ン  
ス

本  
地  
方  
の  
ワ

宏  
壯  
な  
る  
こ  
と  
天  
下  
無  
雙  
な  
り  
と  
云  
ふ  
。  
我  
が  
公  
使  
館  
は  
此  
の  
地  
に  
在  
り  
。

中  
央  
地  
方  
シ  
ン  
シ  
ン  
ナ  
ー  
チ  
(三  
二)  
は  
オ  
ハ  
ヨ  
ー  
河  
の  
右  
岸  
に  
在  
り  
て  
、  
豚  
肉  
取  
引  
の  
盛  
な  
る  
こ  
と  
、  
世  
界  
無  
比  
な  
り  
。  
ル  
ー  
イ  
ス  
ギ  
ル  
(二  
〇)  
は  
オ  
ハ  
ヨ  
ー  
河  
畔  
に  
位  
し  
、  
世  
界  
最  
大  
の  
煙  
草  
市  
場  
と  
す  
。  
ミ  
シ  
ガ  
ン  
湖  
畔  
の  
シ  
カ  
ー  
ゴ  
(一  
七  
〇)  
は  
、  
此  
の  
國  
第  
二  
の  
大  
都  
會  
に  
し  
て  
、  
中  
央  
地  
方  
の  
鐵  
道  
中  
心  
た  
り  
。  
大  
農  
産  
地  
を  
控  
ふ  
る  
故  
に  
、  
穀  
物  
市  
場  
と  
し  
て  
は  
、  
世  
界  
一  
二  
に  
位  
す  
。  
我  
が  
領  
事  
館  
あ  
り  
。  
セ  
ン  
ト  
・  
ル  
ー  
イ  
ス  
(五  
七)  
は  
ミ  
ッ  
ス  
ー  
リ  
河  
の  
本  
流  
に  
會  
す  
る  
處  
に  
在  
り  
て  
、  
汽  
船  
の  
出  
入  
頻  
繁  
を  
極  
め  
、  
頗  
る  
良  
港  
た  
り  
。  
ミ  
シ  
シ  
ッ  
ピ  
河  
の  
口  
に  
近  
き  
處  
に  
、  
ニ  
ュ  
ー  
・  
オ  
ル  
レ  
ア  
ン  
ス  
(二  
九)  
あ  
り  
、  
南  
部  
の  
鐵  
道  
中  
心  
に  
し  
て  
棉  
花  
貿  
易  
盛  
に  
行  
は  
る  
。

太  
平  
洋  
沿  
岸  
地  
方  
桑  
港  
(三  
四)  
は  
同  
名  
の  
半  
島  
に  
位  
し  
、  
太  
平  
洋



イオミシ  
グ洲に有名  
なるイニツ  
ロニ公園  
リ  
桑港は我が  
横濱を距る  
こと四千七  
百餘哩

岸中、商業最も盛大なる處にして、横斷鐵道は概ね此の地を  
終點とし、其の外亞細亞及び濠洲への定期船を出し、又我が  
東洋汽船會社は此の地へ航路を開けるあり。凡そ此邊には  
我が國人の居留するもの頗る多く、我領事館の設あり。タコ  
マ及びシャートルは、此の沿岸地方の北隅に在り、前者は、我  
領事館の所在地にして、後者は我が郵船會社の米國航路の  
終點なり。

アラスカ アラスカは、沿岸頗る屈曲し、コルチレーラ山系の北端其の  
南東部に蟠廻し、加奈太の境に於て、ローガン山となり、高さ殆ど二萬尺に  
及び、本洲第一の高峰たり。又山地には、樹林多く、ユーコン(八二〇)其の他の  
諸川には、魚類夥しく、近海の諸島は有名なる海豹の獵場なり。氣候は冬は  
極めて寒けれども、夏は暑氣甚しからず。住民はエスキモー族と亞米利加  
印度人とにして、多く漁獵に従事す。

#### 第四節 墨西哥

位置 墨西哥は、合家國の南に位し、東は墨西哥灣に、西は太  
平洋に臨み、面積十二萬餘方里あり。

地勢 沿岸は、墨西哥灣斜面にユカタン半島突出して、カム  
ペーチエ灣をなし、太平洋斜面に、狹長なるカリフォルニア半  
島ありて、同名の灣を擁すれども、共に良港に乏し。地形は合  
衆國の西部高原を受け、沿岸を除く外は、一大高原をなし、シ  
ーラ・マードレー山脈、域内に連亘す。此の山脈には、火山多く、  
其の中オリサーバ、ポボカテペトル最も有名にして、前者は  
一萬八千尺を超え、後者は殆ど一萬八千尺に達す。

氣候、産物 氣候は地形及び緯度の高低に由りて、種々な  
れども、概して三様に分れ、従つて植物も其の類を異にす。沿  
岸低地は、暑氣強く、空氣濕潤にして、甘蔗、芭蕉等を産し、高原

シラ  
マードレ  
ー山脈



墨西哥に次ぎて銀の産額多きは合衆國、ポリアス等なり

墨西哥

の斜面は温暖にして、珈琲、仙人掌等を出し、又高原の上部は、寒冷にして玉蜀黍、大麥、小麥の耕作及び牧畜業盛に行はる。中に就き玉蜀黍は此國の常食なり。然れども産物中最も有名なるは、コチニール蟲及び銀にして、銀の産額は世界第一に位す。

住民 住民は、總數千三百五十萬、人種は雜種、亞米利加印度人最も多く、西班牙人の子孫等、高加索人種に屬するものは、凡そ全人口の五分の一に過ぎず。されど一般に西班牙語を使用して舊教を信奉す。政治は合衆國と同じく、立憲共和政治を行ふ。政府近來、外國の移民を獎勵保護するを以て、我が國よりも、移民を送り、南部に於て、一部の殖民地を占めたり。**都邑** 首府を墨西哥(三三)と云ひ海面より七千六百餘尺の高地に在るを以て、熱帯に位すれども、氣候は溫和なり。我が

公使館及び總領事館の設あり。エラクルースは、墨西哥灣沿岸に位し、當國第一の貿易港にして、熱病流行す。アカプルコは之に次ぐ良港にして、太平洋沿岸に在り。

第五節 中央亞米利加

中央亞米利加は、墨西哥とパナマ地峽との間に在る地方にして、東はカリブ海に、西は太平洋に瀕し、面積凡そ三萬方里、

藍



マホニ



人口三百五十萬あり。東岸は屈折多けれども、西岸は大なる出入なく、且概ね斷崖なり。域内火山多きを以て、猛烈なる地震多し。氣候は、大抵墨西哥に同じく、天産亦之に類し、主なるものは、珈琲、玉蜀黍、藍、コチニール蟲、マホガニー等にして、藍は天下の最良品なり。又牧畜行はる。住民は總數殆と四百萬あり、人種は、墨西哥と同じく、宗教も亦一般に舊教行はる。域内分れて左の五共和國及び一英領殖民地となる。

(一) グワテマール共和国

グワテマール共和国は中央亞米利加の最北部に位し、火山多くして震災屢起る。首府をグワテマールと云ふ。

(二) サルヴドール共和国

サルヴドール共和国は、グワテマールの東方に位し、五共和国中、最も小なる國にして、藍の栽培、盛に行はる。首府をサン

サルヴドールと稱し、亦有名の地震國なり。

(三) ホンヂュラス共和国

ホンヂュラス共和国は、英領ホンヂュラスの東に位し、首府をテグシカルバと云ふ。マホガニーを輸出す。

(四) ニカラーグワ共和国

ニカラーグワ共和国はホンヂュラスの南東に位し、域内にニカラーグワ湖と稱する湖あり、此の湖水、サン・フアーン河となりて、カリブ海に入る。故に一時之を利用して運河を開鑿し、太平、大西兩洋を連絡せんと計畫せしことあり、ニカラーグワ運河即ち是なり。首府をマナーグワと稱す。

(五) コスタリカ共和国

コスタリカ共和国は中央亞米利加の最西に位し、珈琲の栽培を以て著る。其の首府をサン・ホーセと云ふ。

ニカラーグワ運河



(六) 英領ホンデューラス

英領ホンデューラスは、サンサルヴドールの北に在り、其の首府をペリーズと云ふ。マホガニーを輸出す。

第六節 西印度諸島

西印度諸島は、合衆國のフロリダ半島附近より、南亞米利加の北岸に列なる諸島の總稱にして、分れてバハーマ諸島、大アンチール諸島、小アンチール諸島の三となる。面積總べて一萬六千方里あり。諸島概ね山多く、火山處々に聳え、地震屢起る。氣候は、低地は暑氣甚だしけれども、高地は、貿易風等の影響を蒙りて、周歲溫暖なり。主なる産物を珈琲、甘蔗、烟草等とす。住民は、約ね四百萬人にして、人種は黑人を主とし、其の他白人、雜種、支那人等あり。主なる諸島は左の如し。

(一) バハーマ諸島

バハーマ諸島は西印度諸島の北東部を占むる五百餘の珊瑚島の總稱にして、英吉利の殖民地たり。此の諸島内のワットリング島は、コロムブスの新世界發見に際し、最初に上陸したる地なりと云ふ。

(二) 大アンチール諸島

大アンチール諸島はバハーマ諸島の南方に横はり、キューバ、ジャマイカ、ヘーチ及びポルト・リコーの四大島より成る。

キューバ キューバは西印度諸島中の最大島にして、其の東部には山岳あれども、中部以西は、概ね小低地に屬す。鐵道縱横に亘



キューバの製糖車屋



り沿岸には良港多し。主なる産物を甘蔗烟草とす。首府ハヴナ(二四)は、西印度の最大都にして、巻烟草の製造、盛に行はる。政治は合衆國の保護の下に在りて、共和政治を行へり。ジャマイカ ジャマイカはキューバの南に位する英吉利の一殖民地にして、頗る風景好し。

ヘーチ ヘーチはキューバの東に位し、西印度諸島中、第二に位する大島にして、山岳多く、域内二共和國に分れ、西部に在るをヘーチ共和國と云ひて、首府をポルト・オー・フランスと稱し、東部に在るをサント・ドミンゴ共和國と云ひて同名の首府あり。前者は黒人の建設する所にして、後者は雜種の設立に係る。ポルト・トリコはヘーチの東に位し、氣候健康に適ひ、人口甚だ稠密にして、甘蔗等の産物多し。首府をサン・フアンと云ふ。合衆國の領地なり。

### (三) 小アンチール諸島

小アンチール諸島は、西印度諸島の西部を占め、英吉利、佛蘭西、丁抹、和蘭四國の分領する所たり。諸島中、重なるものを擧ぐれば、英吉利領には、トリニダード、バルベードスあり、前者は、地瀝青の産出を以て著る。又其のセント・ギンセント島は、近時大噴火ありし處なり。丁抹領のセント・トーマスには、一大良港ありて船舶盛に出入す、和蘭領には、クラサオあり。佛蘭西領には、マルチニーク島あり、同島のペレー火山は、セント・ギンセントと同時に爆裂し、山麓に在りしサン・ペール市を破壊し、數多の住民を掩殺せしは、今尙吾人の耳に新なる所なり。



## 第六章 南亞米利加洲

## 第一節 總論

位置 南亞米利加洲は、亞米利加洲の南半を占めて、熱帶と南溫帶とに跨がり、其の地形整然たる直角三角に似たり。北東、南の三面は大西洋に瀕し、西は太平洋に臨み、面積凡そ百二十萬方里、分れて左の諸國となる。

コロムビア    ゼネズエーラ    エクアドール  
 ペルー    ボリヰア    チーレ    アルヘンチナ  
 ウルグワイ    パラグワイ    ブラジル  
 グワヤーナ

地勢 沿岸は、概して屈曲乏しけれども、南端は稍錯雜して、島嶼も其の附近に並列せり。地形は北亞米利加に類し、東部西部共に高くして、中央に大平原あり。西部高地は、北亞米利

加より續けるコルチレーラ山系に屬するアンデス山脈に由りて形成せられ、亦北亞米利加の西部高地と同じく、太平洋岸に向ひて急に傾斜し、高峰火山多し。東部高地は即ちブラジル山地にして、其の高度は、大に西部高地に劣り、北亞米利加のアリゲーニ山脈に相當す。其他北部にグワヤーナ高地あり。中央平原はオリノコ河流域のリアーノス、アマゾン河流域のセルヴス、ラプラタ河のバムバスにして、此等の三低地は殆ど相連結せり。主なる河流は、皆大西洋斜面に在り、即ちオリノコ、アマゾン、ラプラタの三大河の如きも、共に西部高地の麓より出でて東流す。一般に河流の水量に富めることも、亦北亞米利加に等し。

氣候 プラジル以北、即ち本洲の大部分は、熱帶に在るを以



て、一般に暑氣強けれども、ブラジル以南は、温帯に位し、且土地狭少なるを以て、頗る温和なり。又西部高地も暑氣は一般に烈しからず。降雨はアンデス山脈の西及びバムバスの一部を除き、其の他は總べて多量にして、特に北部に多し。是北東及び南東貿易風の影響を蒙るに因れり。

天産物 本洲は、氣候炎熱にして多雨なるを以て、植物の種類の豊富と、生育の著しきとは、諸大陸中第一に居り、殊にアマゾン河の流域は、幾那、ココオ、棕櫚等の熱帯植物、非常に繁茂せり。鑛物も亦甚だ多く、其の主なるものは、アンデス山脈の銀及び銅にして、其の他にも石炭、金、金剛石等の産あり。動物界の特徴は、昆蟲類、爬虫類に富めることにして、コンドル鳥、ハムミング鳥、ボア(大蛇)、鱈魚、其の他レイマ、アルバカ、ジャガール等多し。家畜は北亞米利加と同じく、舊世界よりの輸入

に係り、現時は、其の種屬大に繁殖せり。

住民 住民は、總數殆と四千萬にして、面積に比すれば、至つ



南亞米利加の森林





て稀薄なり。人種は高加索人種、亞米利加人種、黑人、雜種の四に分る。其の中最も多きは雜種にして、高加索人種之に次ぐ。高加索人種は、歐羅巴各國の移住民及び其の子孫より成り、中にも西班牙人の子孫最も多く、從て西班牙語盛行はれ、一般に舊教を信奉す。是本洲の諸國は、元悉く西班牙領なりしを以てなり。但しブラジルは其の後葡萄牙領となりしことあるを以て、葡萄牙人の子孫多く、専ら葡萄牙語行はる。教育は稍盛にして、各國概ね大學あり。

**交通** 交通は、一般に未だ發達せずと雖も、他の大陸との間には、汽船の往來、海底電線の敷設ありて、稍便利なり。又鐵道の敷設も次第に増加し、既に南部に於て、大陸を横斷するに至れり。

## 第二節 西部諸國

### (一) コロムビア

コロムビアは、南亞米利加之北西隅を占め、パナマ地峽より赤道に達し、北はカリブ海、西は大西洋に臨み、面積凡そ八萬五千方里を有す。西部には、アンデスの北脈、三派をなして連亘し、マグダレナ、カーウカの二河、其の間を流れ、東部は、一般に低地にして、アマゾン河支流と、オリノコ河支流との流域たり。氣候は、土地の高低に由りて、三類に分れ、高地の頂上は、寒氣頗る強く、其の斜面は溫和にして、低地は一般に暑氣酷烈なり。主なる天産を烟草、珈琲、幾那等とす。住民は凡そ四百萬人ありて、政治は、共和政治を行へり。

首府をボゴタと云ふ。パナマ地峽の北岸に在るコロロンと、南岸にあるパナマとの兩港は、鐵道を以て相連絡せり。曾て此の鐵道に沿ひて、有名なるパナマ運河を開鑿せんとし、資金

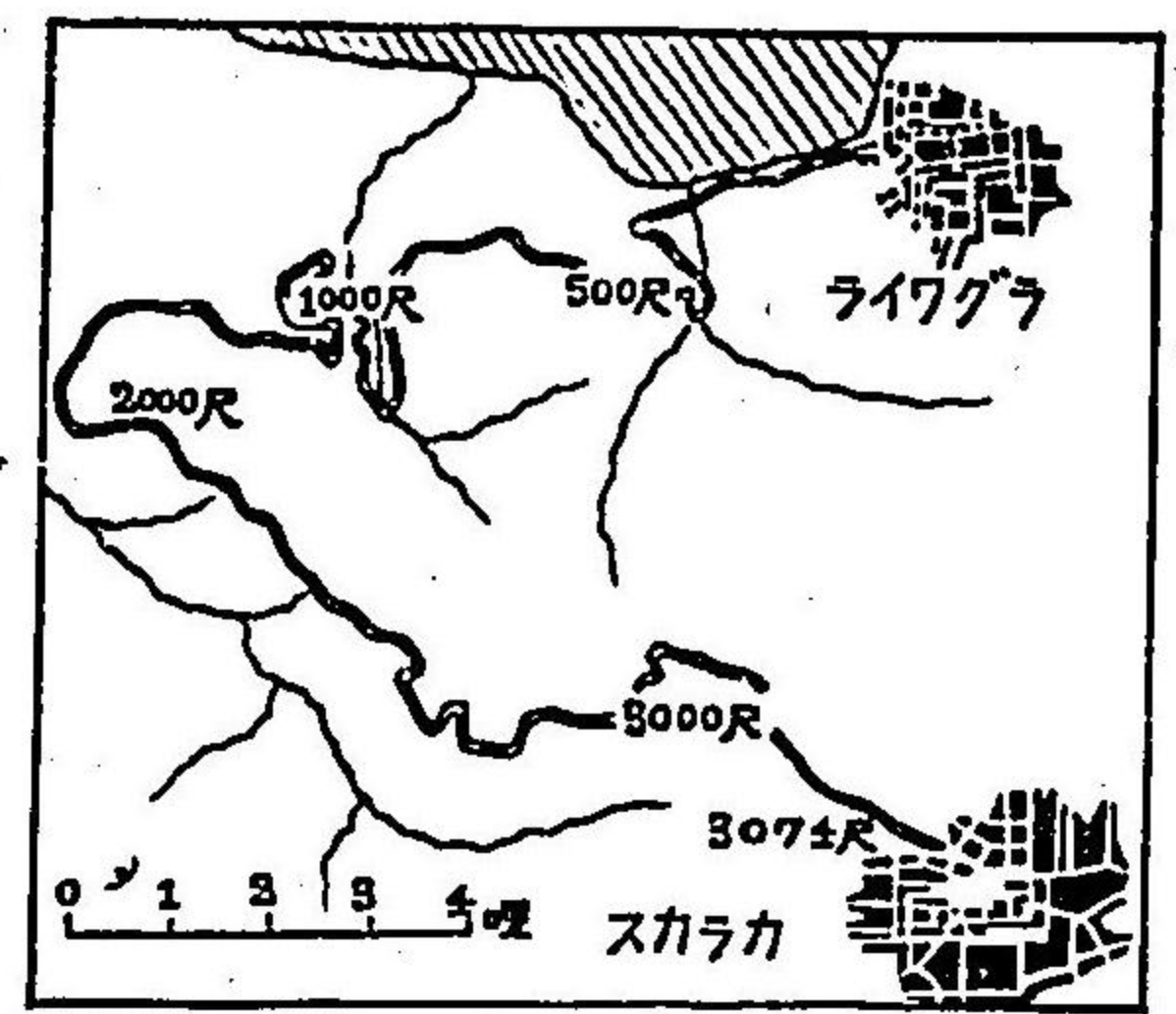
パナマ運河



缺乏の爲め、工事を中止せしが、近時復開鑿着手に決定せりと云ふ。

(二) デネズエーラ

デネズエーラは、コロムビアの東方に在りて、北はカリブ海に臨み、面積凡そ十萬方里あり。沿岸は稍屈曲し、東部にマラカールイボ灣の深く凹入するあり。地形は、北部と南部とに高くして、中央に



道鐵の間ライワグ・ラ、スカラカ



ココス山脈の一支脈にして、南部高地は、グワヤーナの高地に

オリノコ河

當れり。中央低地は、オリノコ河(六五〇)の流域に屬するリヤノスにして、牧畜行はる。此の河は河口に一大三稜洲を形成し、又其の一支流はアマゾン河の一支流と連絡せり。氣候及び天産は概ねコロムビアに類し、住民は、凡そ二百三十萬。政治は、共和政治を行ふ。首府をカラカスと云ひ、鐵道に由りてラ・グワイラ港と連絡し、其の線路甚だ屈曲せり。其の附近は、良質のココアを産するを以て著る。

(三) エクアドール

エクアドールは、コロムビアの南に在りて、赤道直下なり、エクアドールとは、即ち赤道の義なり。面積凡そ二萬方里ありて、國の西部太平洋沿岸にはアンデス山脈峙ち、脈中火山多く、其の中チムボラソ、コトバキシ一の二峰最も有名なり、前

チムボラソ、コトバキシ



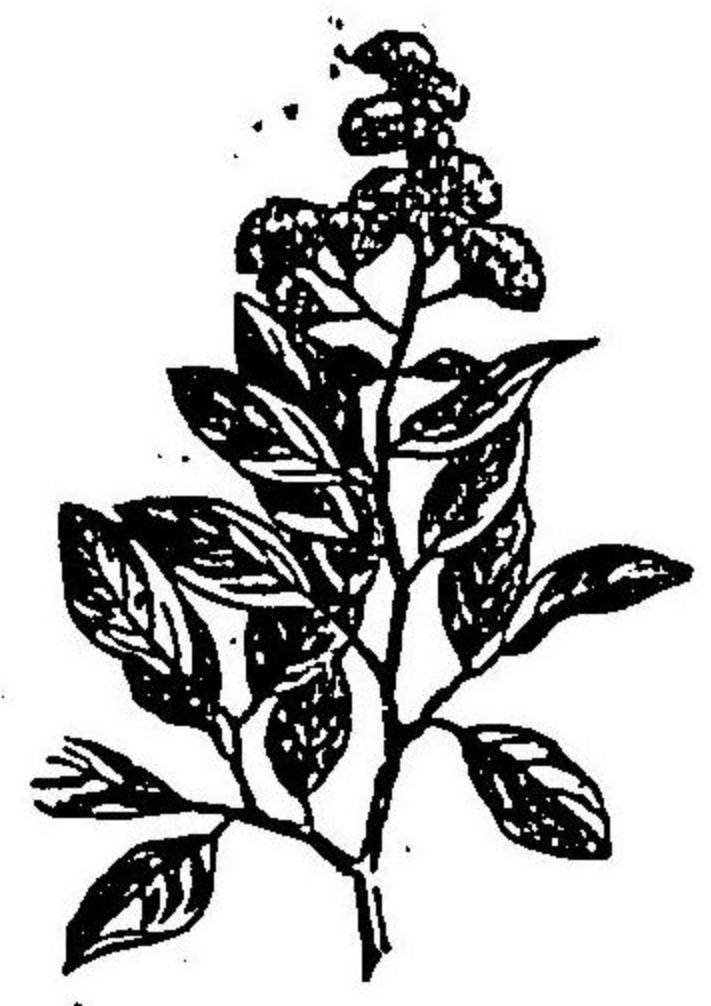
者は高さ二萬尺を超え、後者は凡そ二萬尺に達して、稍前者に劣れども、世界最高の活火山にして、其の形我が國の富士山に類す。此等の故を以て、國中震災の起ること頻繁なり。國の東部は、アマゾン河支流の流域にして、農業行はれ氣候は低地に暑く、高地に溫和にして、重なる産物をココオとす。住民は、總數百二十萬、政治は共和政治を行ふ。首府をキートと云ひ、海面上、一萬尺の高地に在るを以て、氣候溫暖、周歲の如し。グワイアキールは、此の國の良港にして、盛にココオ、幾那皮を輸出す。



土家の屋

(四) ペルー

ペルーは、エクアドールの南に位し、面積十二萬方里ありて、アンデス山脈之を縦貫せり。此の山脈の東方は、アマゾン河支流の流域にて、雨量多く、地味肥饒なれども、西方は無雨乾燥の砂地たり。氣候は、高地に溫和にして、低地に炎熱なること、エクアドールに同じ。主なる産物は、幾那皮、鳥糞及び銀とす。住民は、總數四百六十萬にて、其の大部は、亞米利加印度人なるが、近時支那人の移住者、著しく増加せり。政府及び國人は、我が移民を歓迎せしが、未だ良好の成績を得ず。政治は、共和政治を行ふ。首府をリマと云ふ。チチカカ湖畔のラバースは、此の



幾那樹



國の最大市にして、アンデス高原中に在れども、鐵道に由りて、太平洋沿岸に通ず。

(五) ボリギア

ボリギアはペルーの南東に在る無海國にして、積面十萬餘方里あり。アンデス山脈其の南西部を通過し、脈中の高峰ソラーダ、イリマニは、共に高さ二萬一千尺を超ゆ。北東二部はマデーラ河の流域にして、セルブスの一部を成す。氣候は高地は稍寒冷に、低地は炎熱なり。主なる物産を銀及び幾那皮とす。住民は總數百八十萬あり。政治は共和政治を行ふ。首府をスークレと云ふ。チチカカ湖畔のラ・パリスは、此の國の最大市にして、鐵道に由りて太平洋沿岸に通ず。

(六) チーレ

位置地勢 チーレは、ペルーの南境より、本洲南端に至る

ソラーダ、  
イリマニ

チチカカ湖は海抜一萬二千尺の高所にありて世界の最高湖なり

アコンカ  
グワ峰

狹長の國にして、面積凡そ四萬五千方里あり。沿岸は、南部に屈曲多く島嶼亦多し。最大島なるテラ・デル・フェーゴの東部は、其の領地たり。此の國は殆どアンデス山脈の西部斜面に位するを以て、火山多くして、地震屢起る。東境に聳ゆるアコンカグワ峰は、高さ二萬四千尺に達し、本洲の最高峰なり。氣候、産物 氣候は、土地狹長なるが故に、處に由りて異なるれども、其の大部、温帶に位し、且寒流沿岸を洗ふに因り、本洲中最も冷涼なり。産物は、農産、礦物に富み、中部、南部よりは小麦、葡萄を産し、北部よりは、銅、銀、硝石を出す。

住民 住民は、總數二百七十萬あり、西班牙人の子孫多く、性勤勉有爲にして、國運日に増進す。又軍備擴張にも、大に力を用ひ、今日は、南米第二の海軍國となれり。共和政治を行ふ。

都邑 首府をサンチアゴ(三二)と云ひて震災多き處なり。

サンチア  
ゴ



グルバライーソは、太平洋岸第一の要港にして、本洲横斷鐵道を以て、サンチアゴと聯絡す。

### 第三節 東部諸國

#### (一) アルヘンチナ

**位置地勢** アルヘンチナは、本洲の南部を占むる大國にして、面積凡そ十九萬方里、沿岸は稍屈曲あり。域内西部には、アンデス山脈連亘し、東部には、ラプラタ(一、一〇〇)の大河あり、此の河の流域なるバムバスは、牧草芊々たる大平原にして、南方バタゴニアのステップと相連なる。バタゴニアの南なるテラデルフェーゴ島の東部は、當國の領地に屬し、又此の島の北東になるフークランド諸島は、英吉利の領地たり。**氣候住民** 氣候は、概ね溫暖なれども、時としては暴風雨の起ることあり、又時としては、周歲降雨なきことありて、一般

ラ・プラ  
タ河

バタゴニア  
人は身長平  
均凡そ六尺  
五寸



バタゴニア人

に空氣乾燥なり。住民は、總數四百八十萬多くは、西班牙人の子孫に屬し、移住者には、伊太利人多し。又南部バタゴニアに住する土人は、骨格壯大なるを以て著る。

**生業産物** 主なる生業は、牧畜にして、バムバス地方に行はれ、羊毛の産出多く、耕作も、近時大に發達せり。政治は、共和政治を行ひ、貿易は、本洲諸國中第一に居り、主に英吉利、佛蘭西等と取引し、羊毛、皮類、肉類及び小麦等の穀類を輸出す。此の國は、本洲中鐵道最も發達せる處なり。



都邑 首府をグエーノス・アイレス(八〇)と云ひて、ラプラタ  
河口に位し、本洲第一の大都會にて横斷鐵道の一端たり。コ  
ルトブは、國の中部に位する都會なり。

(二)ウルグワイ

ウルグワイは、アルヘンチナの東に位し、面積僅に一萬二  
千方里、本洲中最小の國なり。北と東の二面には、丘地あれど  
も、其の他は、東境を流るるウルグワイ河の流域にして、バ  
ムパスの一部をなし、牛羊の飼養盛に行はる。氣候は濕潤な  
れども一般に溫和なり。主なる産物を肉類、羊毛等とす。住民  
は總數九十餘萬、政治は共和政治を行ふ。首府モンテ・ギデー  
オ(二七)はラプラタ河口に位し、屠肉業盛に行はる。

(三)パラグワイ

パラグワイは、アルヘンチナの北東に在る無海の小國に

して、面積凡そ二萬六千方里あり。域内東部は一帶に丘地な  
れども、其の他はパラグワイ河、巴拉ナ河等の流域にして、  
バムパスの一部をなし、地勢低平にして、洪水屢起り、従つて  
地味豊饒なり。氣候は半は熱帶性にて、主なる産物をパラグ  
ワイ茶、烟草とす。住民は、總數凡そ六十六萬、政治は、共和政  
治を行ふ。首府アスンシオンは、パラグワイ河畔に在り。

(四)ブラジル

位置地勢等 ブラジルは、南亞米利加の最大國にして、本  
洲諸國中、此の國と境を接せざるは、チーレ一國あるのみ。而  
して北東より南東に亘りては、大西洋に臨めども、沿岸は一  
般に屈曲少く、面積凡そ五十四萬方里、地形は東部は謂はゆ  
るブラジル山地にして高く、其他は概ね低地なり。低地はア  
マゾン河の流域なるセルブス大平原にして、其の大部分は、



アマゾン河等

ブラジルの次ぎて多量の産物はエチオピア等なり

鬱々たる樹木を以て蔽はれ、世界第一の森林をなす。主なる河流はアマゾン、トカンチンス、サンフランシスコ等なり。其中アマゾンは長さ千三百五十里に達し、世界第三の長流なりと雖も、水量に於ては第一に位す。幾多の支流中、マデラ河は最も大なり。氣候は國の全部殆ど熱帯に位するを以て、一般に暑氣酷烈にして、雨量甚だ多し。

**住民、政治等** 住民は、總數千四百餘萬にて、面積に比すれば、猶頗る少く、葡萄牙人の子孫、其の三分の一を占め、黑人、亞米利加印度人亦多し。政治は共和政治を行ふ。海軍は本洲第一なり。生業は、地味膏腴なるを以て農業を主とし、中に就き珈琲の栽培盛に行はれ、凡そ世界に於ける珈琲産額の三分の二を出し、其の他砂糖、棉花、ココオ、烟草等の産あり。牧畜、鑛業は、共に未だ盛ならざれども、金剛石と金とは、頗る名高し、

リオデジャネイロ



珈琲樹

其の外山林よりは、種々の有用なる材木及び護謨等の副産物を出す。貿易の盛なることは、本洲諸國中、第二位に在り、主に英吉利、佛蘭西と取引す。交通は、未だ一般に不便たるを免れず。

**都邑** 首府はリオデジャネイロ(七五)と云ひて、大

西洋岸に位し、本洲第二の大都會に

して、珈琲、金剛石の取引盛に行はれ、我が公使館及び總領事館の設あり。ヘルナムブゴ及びバイーア



談談樹



は、共に繁華なる港にして、農産物等の輸出多し。

(五) グロウヤーナ

グロウヤーナは、ブラジルの北に位し、面積凡そ三萬五千方里、人口凡そ四十萬、分れて佛領蘭領、英領の三部たり。海岸屈曲少く、土地低けれども、内地はグロウヤーナ高地の東部に當りて、丘地多く、大山林あり。氣候は一般に炎熱にして、濕氣多し。佛領グロウヤーナ 佛領グロウヤーナは西部に在り、佛國罪囚の配流地にして、産業未だ盛ならず、首府をカエンと云ふ。蘭領グロウヤーナ 蘭領グロウヤーナは、中部に位して、黒人多し。産物には、金及び砂糖あり。首府をパラマリイボと云ふ。英領グロウヤーナ 英領グロウヤーナは東部に在り、印度よりの移住者、住民の大部を占め、黒人之に次ぐ。主要の産物には、砂糖及び金あり。首府をジョージタウンと稱す。

第四編 結論世界に於ける日本

第一章 面積及び人口の比較

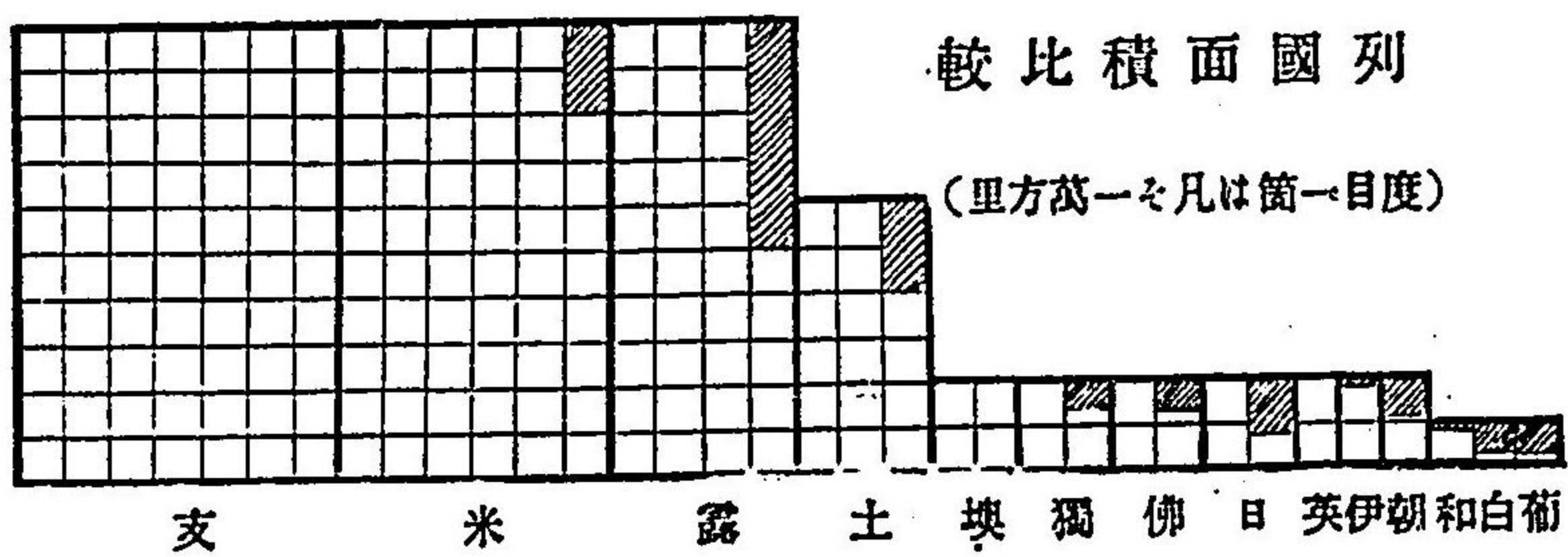
六大洲及び列國間の比較 今地球上陸地の面積を三個に等分すれば、凡そ亞細亞は、其の一個を占め、北亞米利加は一個の半を占め、歐羅巴と太平洋とは、各半個の半を占め、南亞米利加は、一個の三分の一、亞非利加は、三分の二を占む。今又各洲に於ける

主なる諸國の面積を比較するに、支那最も大にして、凡そ我が國に二十六倍し、米國之に次ぎて、凡そ二十二倍し、露西亞

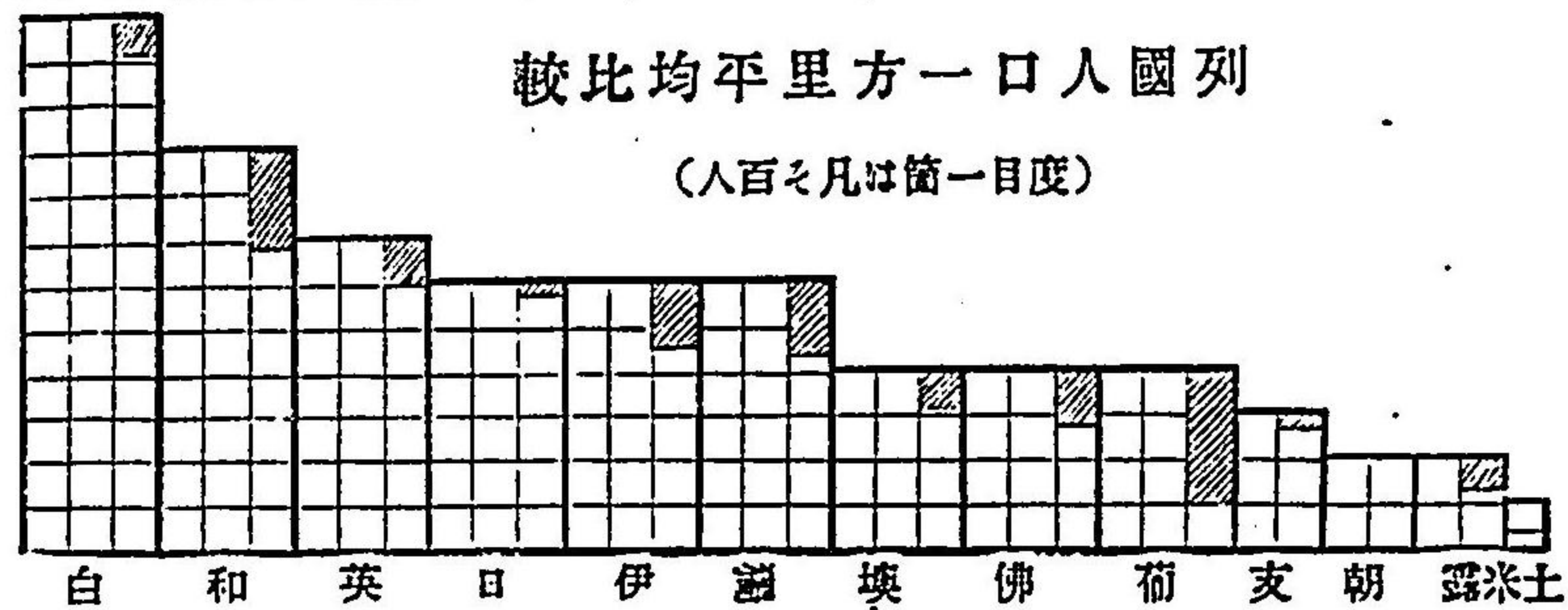
各洲面積比較	
亞細亞	歐羅巴
	北米
亞非利加	南米
	太平洋

列國面積比較

(一目一釐は凡そ一萬方里)



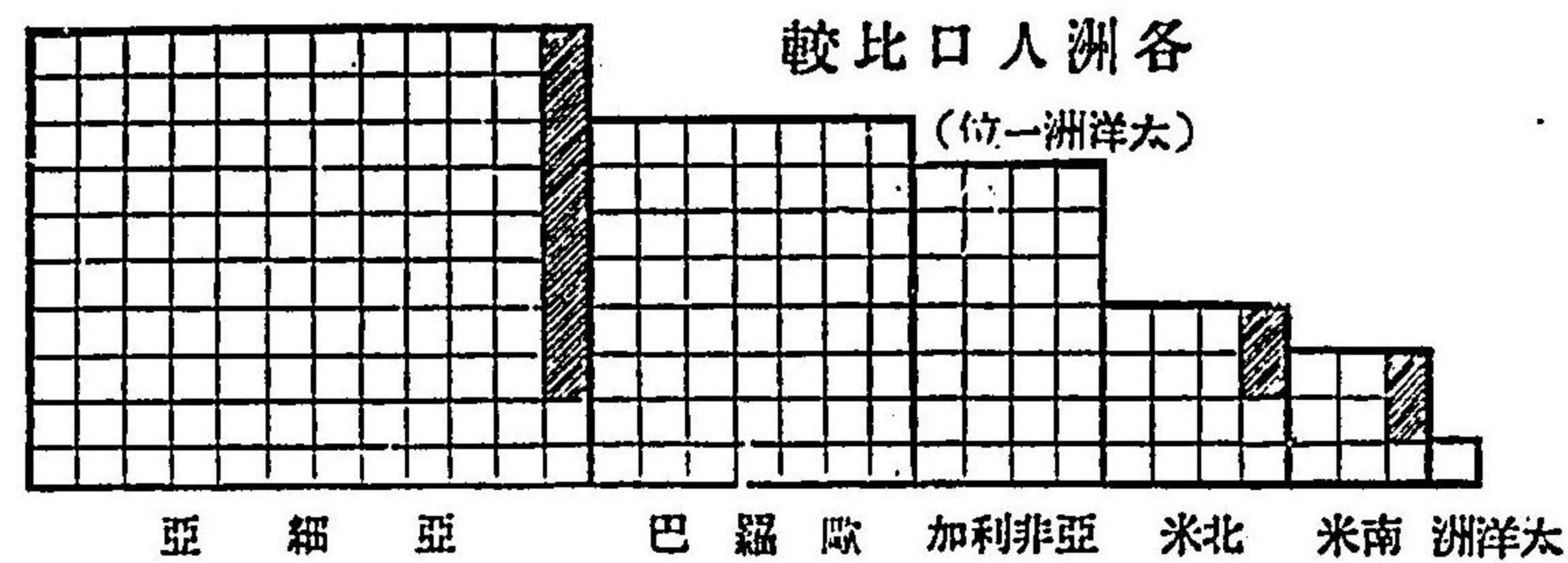




列國一人方里平均比較  
(八百之凡は簡一目度)

土露朝支荷佛埃露伊日英和白  
半を保ち、太平洋は、南亞米利加の七分の一を保てり。而して主要なる各國の人口を比較するに、支那最も多くして凡そ我國に九倍し、以下露西亞、米國等凡そ圖の如し。若し夫人口の粗密を比較すれば、白耳義は世界第一に居り凡そ我が國に二倍し、和蘭英吉利之に次ぎ、其の他概ね圖に示すが如し。

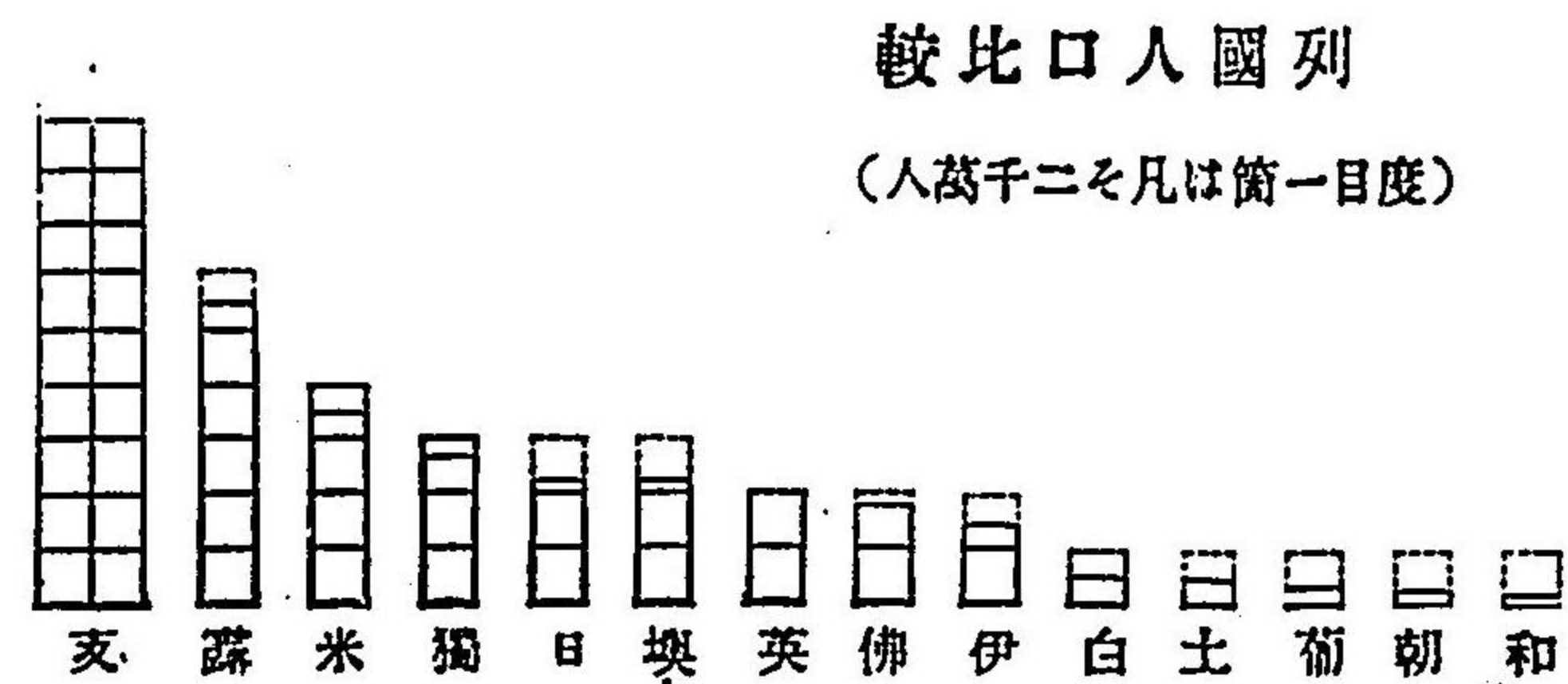
**列國領土の比較** 列國の所有する屬地の面積人口を比較するに、海軍の最も強大にして、海運業の最も盛なる英吉利の屬地第一位を占め、其の範圍は、南亞米利加を除きて、其の他の諸洲に亘り、面積凡そ本國に



各洲人口比較  
(位一洲洋太)

は十二倍、獨逸、佛西蘭は稍大に、英吉利は稍小に、和蘭白耳義等は十分の一以下なり。

**六大洲及び列國間の人口及び其の密度の比較** 世界に於ける人口の總數は、凡そ十五億にして、亞細亞は、總數の半を保ち、歐羅巴は、亞細亞の半を保ち、亞非利加は、歐羅巴の半、北亞米利加は、亞非利加の半、南亞米利加は、北亞米利加の



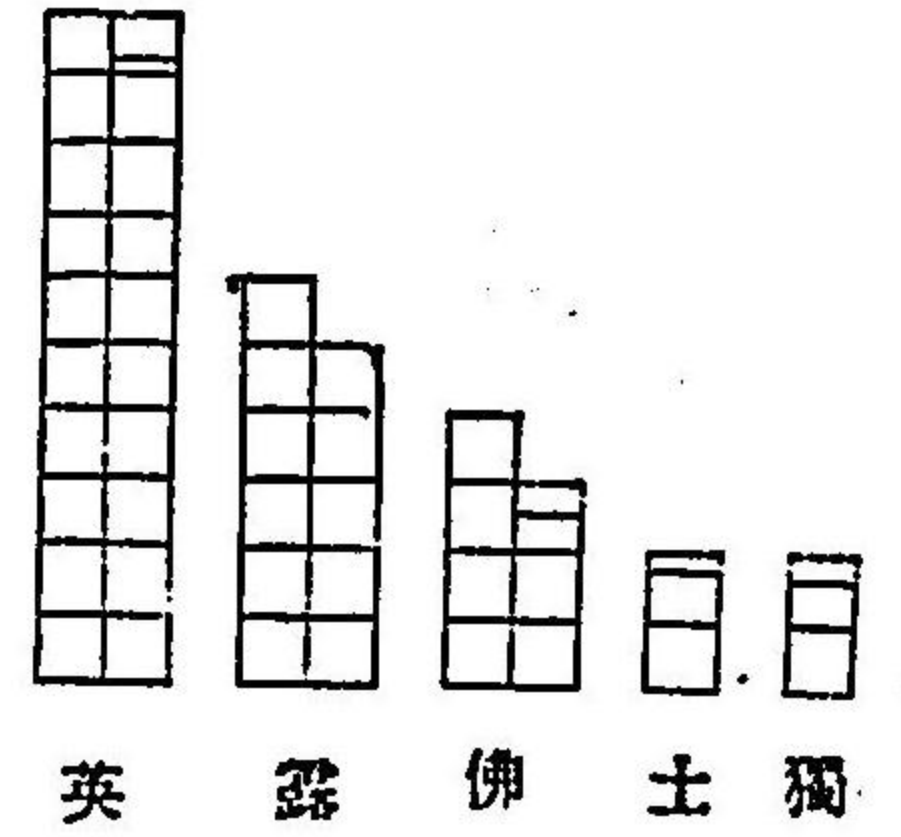


百倍し、人口亦本國に十倍す。以下露西亞、佛蘭西、獨逸等は凡そ圖の如し。

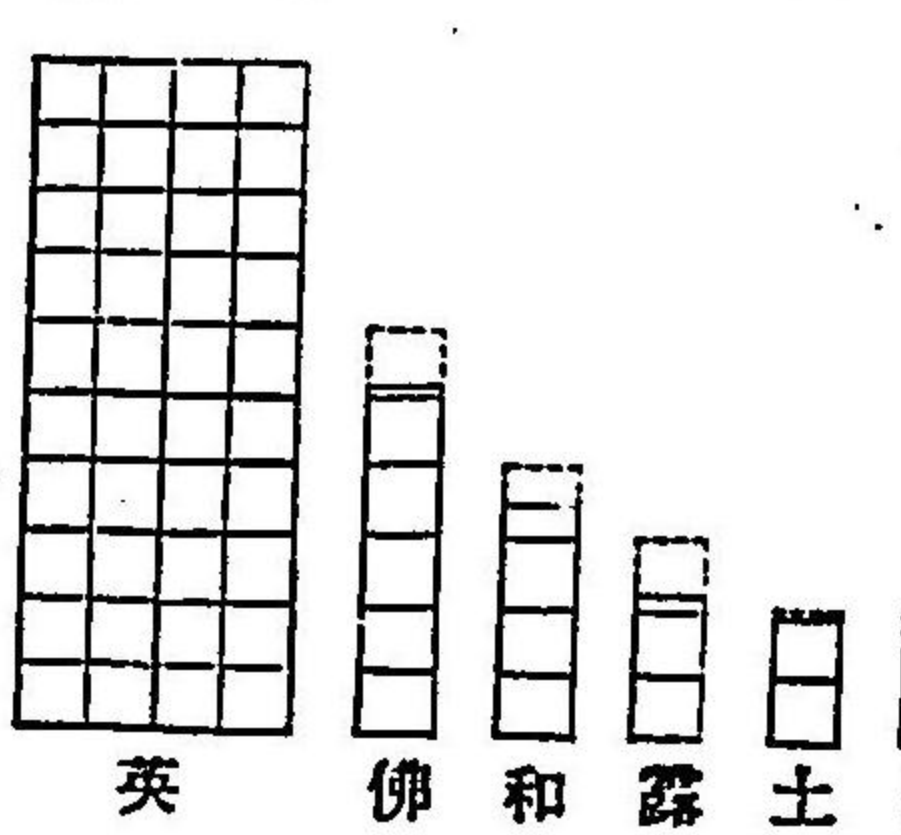
即ち露西亞、佛蘭西、獨逸等は、概ね其の面積に於て、本國に數倍する領地を有せり。此の中特に注意すべきは、米國と獨逸にして、共に近來頻に領地の擴大に努むるもの如し。之に反して土耳其は國運日に衰退し、漸次其の版圖の縮少するを免れず。又我が國の領土は、臺灣、千島及び太平洋上に散在する二三群島にして、面積、人口共に少けれども、頗る樞要の位置に在り。

第二章 世界に於ける貿易

列國領地面積比較  
(度百一箇は凡そ十萬方里)



列國領地人口比較  
(度百一箇は凡そ一千萬人)



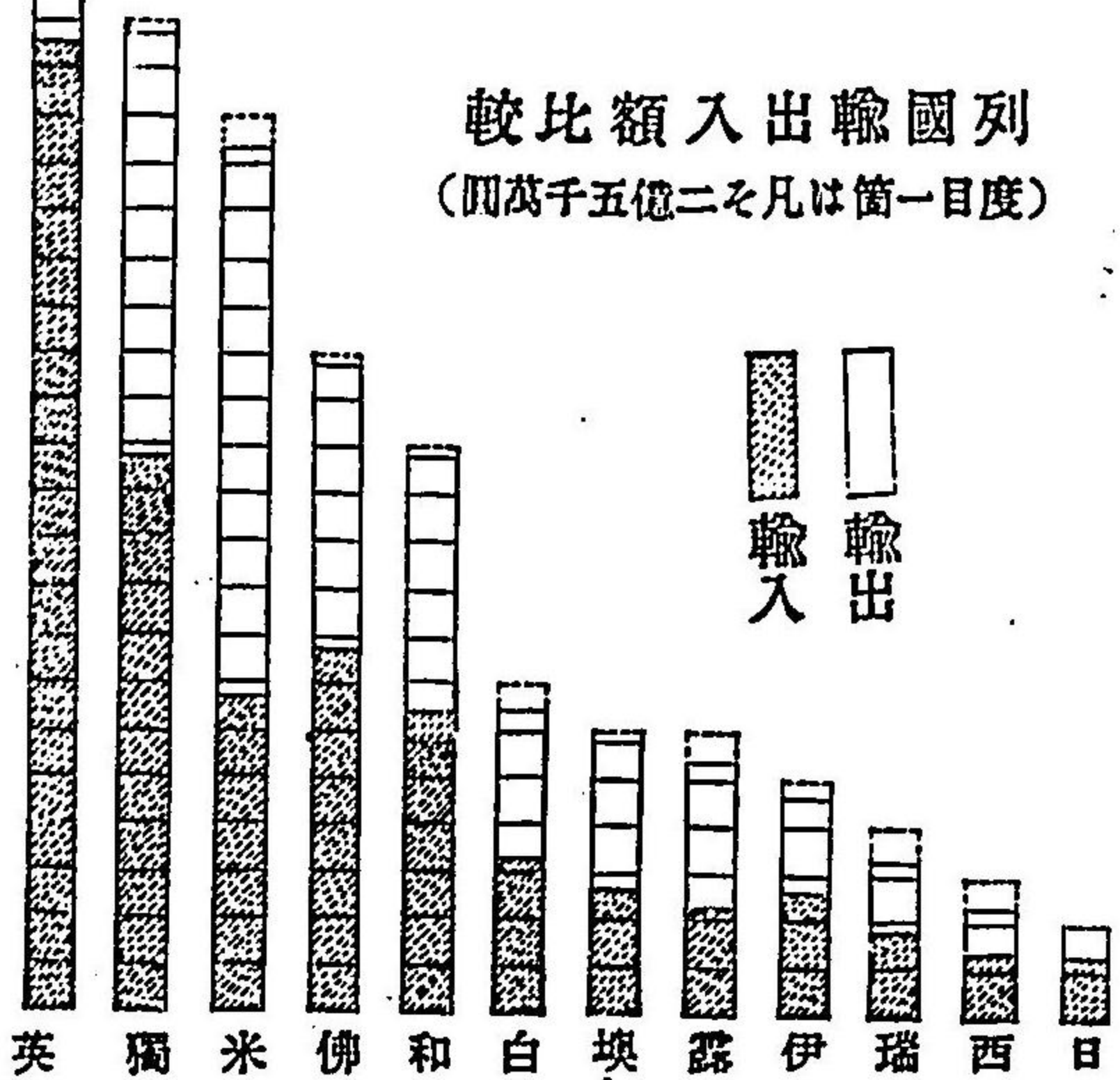
葡倍する領地を有せり。此の中特に注意すべきは、米國と獨逸にして、共に近來頻に領地の擴大に努むるもの如し。之に反して土耳其は國運日に衰退し、漸次其の版圖の縮少するを免れず。又我が國の

今や世界に於ける貿易は、交通の發達と共に、其の進歩著し、各大洲中、貿易の最も盛に行はるるは、歐羅巴、北亞米利加間に於て、歐羅巴、亞細亞、北亞米利加間、歐羅巴、濠洲間等、其の繁榮相次第せり。

列國貿易額の比較 貿易額の多少は、以て其の國の盛否を

トするに足る、世界中其の第一位を占むるは、英吉利にして、遠く他の諸國に超出し、凡そ我が國に十六七倍せり。獨逸、米國之に次ぎて、共に殆ど我が國の十倍に達し、殊に此の二國は貿易界に於ける新

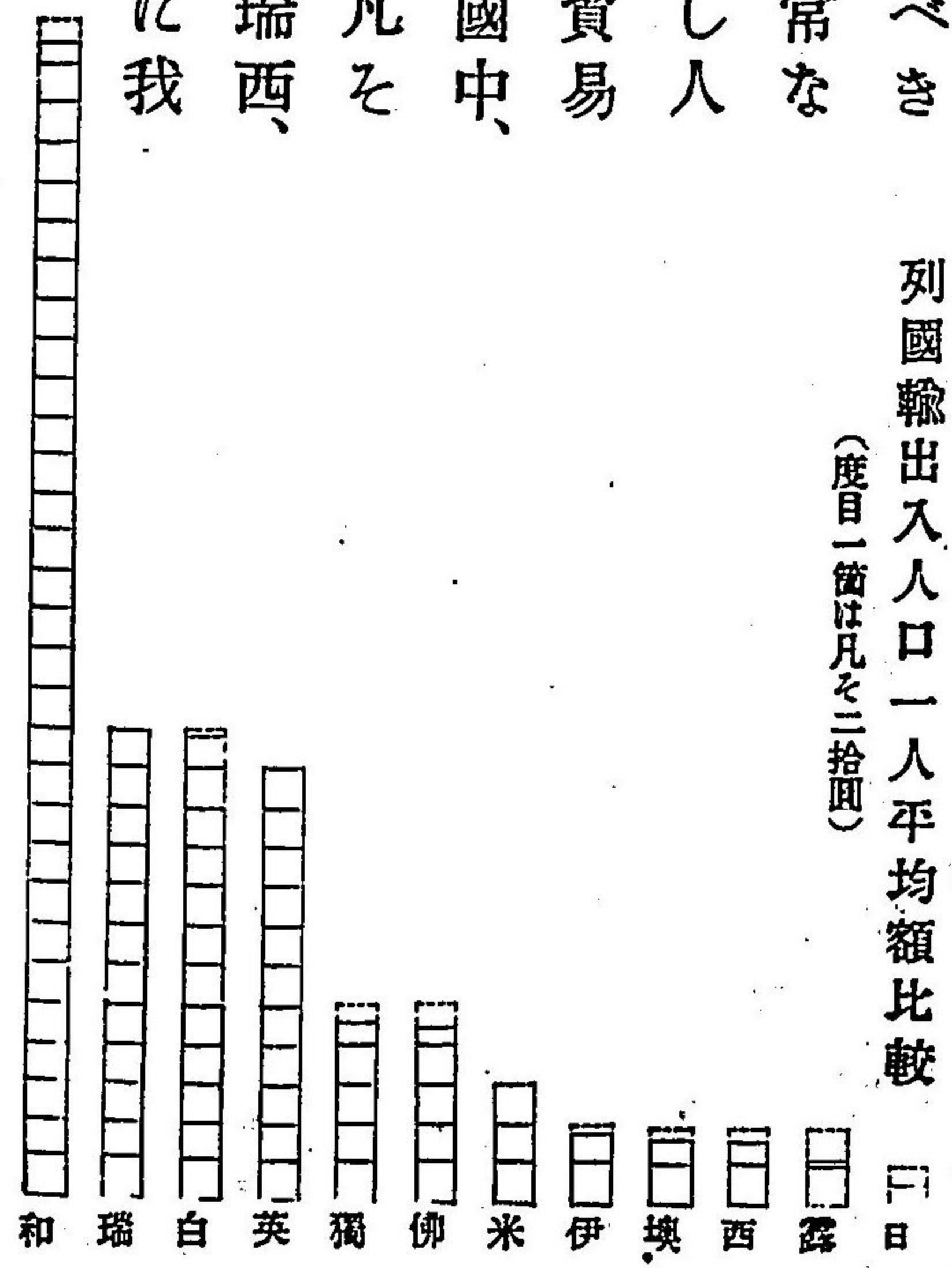
列國輸出入額比較  
(度百一箇は凡そ二億五千萬圓)





進國とも稱せらるべき  
 ものにして、近年非常な  
 る進歩をなせり。若し人  
 口毎一人に對する貿易  
 額を比較すれば、各國中、  
 和蘭最も多くして、凡そ  
 我が國に六十倍し、瑞西、  
 白耳義之に次ぎ、共に我  
 が國に二十餘倍す。

列國輸出入人口一人平均額比較  
 (度目一箇は凡そ二拾圓)



第三章 世界に於ける交通

交通は、文明を進むる最大要件なり。開化が、河海湖水の沿岸に始り、半島國或は海岸多き國に興るも、皆交通の便あるに頼る。されば方今歐米諸國は、競ひて交通機關の改善進歩を

圖りつゝあり。

世界の航路交通は、主として船舶、鐵道、電信に頼りて行はるるものなり。世界に於ける主なる航路には、大西洋航路、東洋航路(スエーデン選河による)、太平洋航路、喜望岬航路、ホーン岬航路、西印度航路等あり。中にも大西洋航路は、商業盛大なる歐羅巴、北亞米利加等の間に在るを以て、其の繁榮他に比類なし。

航路名	發	著	地
大西洋航路	歐羅巴	と	南北亞米利加間
東洋航路	歐羅巴	と	亞細亞の南部、東部、濠洲間
太平洋航路	北亞米利加	と	亞細亞の東部、濠洲間
喜望岬航路	歐羅巴	と	南亞非利加、印度、濠洲間
ホーン岬航路	歐羅巴	と	南亞米利加西部間
西印度航路	歐羅巴	と	西印度諸島、中央亞米利加等の間

世界の鐵道 世界の鐵道中、殊に注目すべきは、大陸橫斷鐵



道なり、中にも北亞米利加の横斷鐵道と、西比利亞鐵道とは、其の主なるものなり、前者は、太平洋、大西洋の兩航路を連絡し、後者は、未だ竣工せざれども、數年の後には、歐羅巴諸國の鐵道と相待つて是亦太平洋、大西洋の兩航路を連絡するに至るべし。

世界の電信電信は、陸上線と海底線と相連絡して、益交通に多大の便益を與ふるものなり。其の中海底線は、各大洲間を結合するものにして、方今世界の主なる海底線は、大西洋北線、大西洋南線、東洋線等とす。此の中大西洋北線は、線條最も多くして、其の數十四五條に上れり。

線名發著地

- 大西洋北線 歐羅巴と北亞米利加間
- 大西洋南線 歐羅巴と南亞米利加、亞非利加の西方沿岸

東洋線

歐羅巴と亞非利加の東方沿岸、亞細亞の南部、東部、濠洲間

此の外歐羅巴と亞非利加の北岸とを連絡する地中海線も亦重要なるものの一たり。

日本を中心とせる航路 今又特に日本を中心としたる航路及び電線の重なるものを説かんに、東方航路(太平洋航路)は、横濱、神戸より直ちに北米のグンクローブ、シヤートル又は桑港に至り、西方航路(東洋航路)は、横濱、神戸より長崎に至り、其より浦鹽、斯德及び支那、朝鮮沿海の諸港に往來する航路と、長崎より上海、香港、新嘉坡、コロムボ、スエーデン等を経て歐羅巴に航するものとあり。又香港より折れて、ルソン又ハ濠洲に至るものあり。此等の海外航通に従事する海運會社は本邦人の事業として、日本郵船會社と東洋汽船會社とあり。別に大阪商船會社等ありて、支那、朝鮮沿海と長江航路



とに從事す。又西人の組織したるものにては、東方航路に太平洋汽船會社、加奈太太平洋鐵道會社、オー・オー會社等あり。西方航路に英國のビー・オー會社、佛國のエム・エム會社、獨逸のロイド會社等あり。

若し西比利亞鐵道完成するに至らば、我が國は浦潮線より歐羅巴に至る一路を得べく、パナマ運河完成するに至らば、スエースに由らず、南米を廻らずして、直ちに亞米利加の東岸に通ずるを得べし。

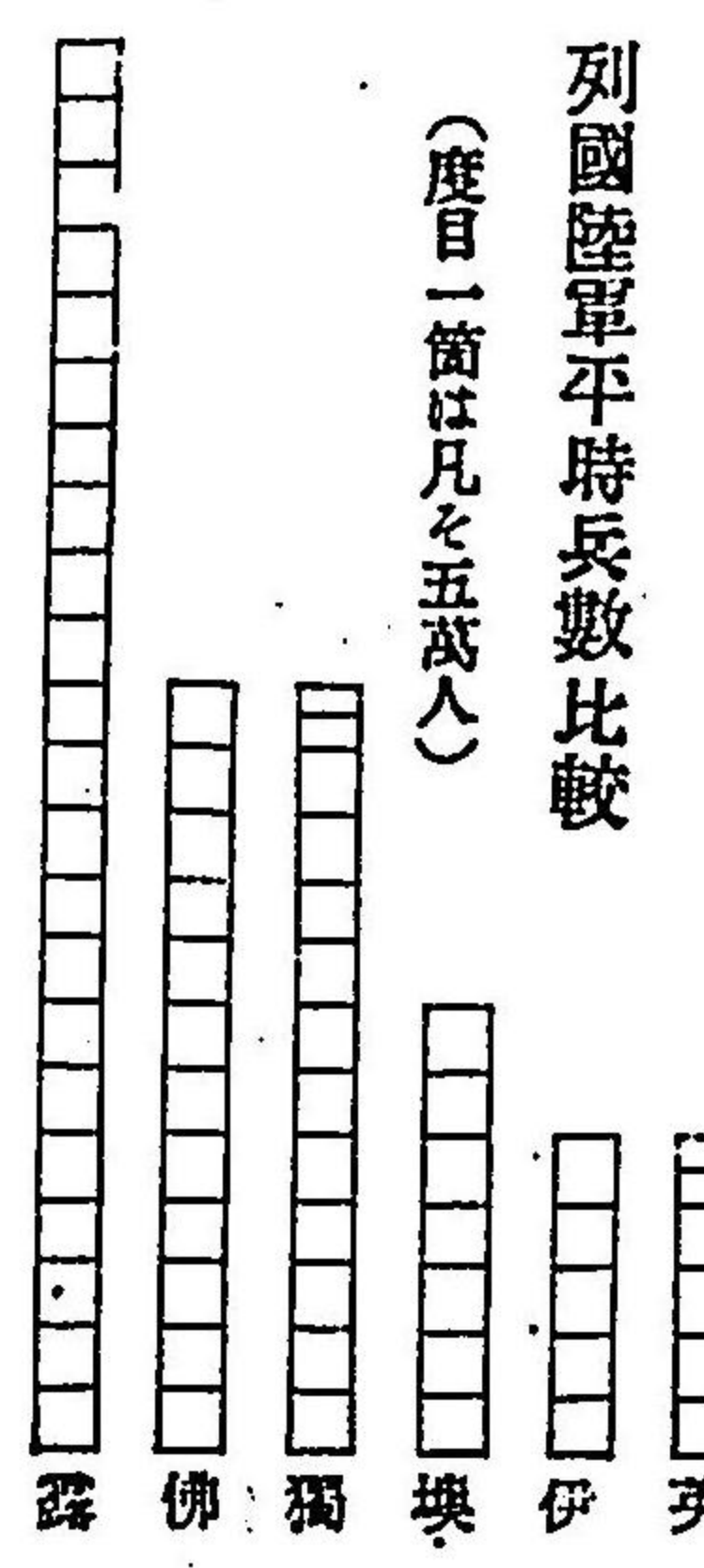
日本を中心とせる海底電線 我が國より歐米に通ずる電信線路は、第一は長崎より上海、印度諸港、亞丁、スエース等を経て歐羅巴に至る。其の間に新嘉坡より分岐して、濠洲に通ずるものあり、第二は、長崎より浦鹽斯德、イルクツク等を経て歐羅巴に至る。而して太平洋に於ては米國布哇間の

電線あるのみなれば、我が國より米國に通ずるには、必ず大西洋線を假らざるべからず。目下米國は太平洋橫斷電線の敷設を計畫しつゝあれば、幾許ならずして、此の不便を補ふに至らん。列國の鐵道線路、電信線條の延長等に就いては附録を見るべし

### 第四章 軍備の比較

列國間に、永久平和を樂しむことを得ば、全く軍備の必要を感じざるべけれども、生存競争は、到底免るべからずして、戰役の行はるること屢なり。是に於てか開明の諸國は、益國防の堅實ならんことに努め、競うて軍備を擴張し、之に投ずる費用の莫大なること、實に驚くべきものあり。

### 列國の陸軍比較 今主





なる諸國の陸軍を比較するに、兵數に於ては露西亞第一位を占め、凡そ我が國に九倍し、佛蘭西、獨逸之に次ぎて、凡そ我國に五倍す。其の他、奧地利、匈牙利、英吉利等は、圖の如し。戰時に於ては、各國皆之に數倍する兵を募集するを得れど、其の兵力の比は茲に上げたるものと大差なし。

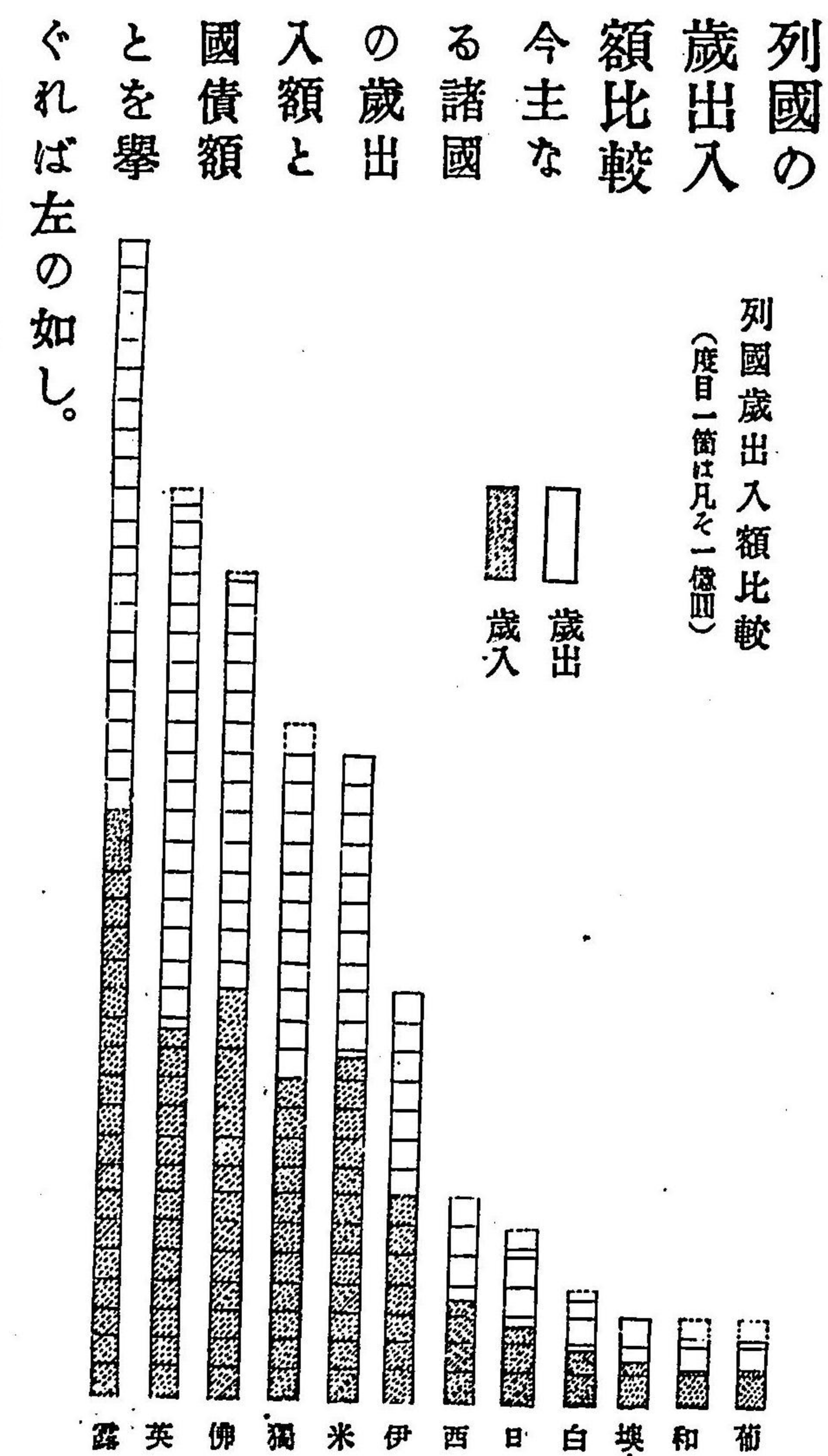
**列國の海軍比較** 海軍に於ては、英吉利第一にして、軍艦の噸數凡そ我が國に八倍し、佛蘭西之に次ぎ

列國海軍比較  
(度目一節は凡そ五萬噸にして製造中のもの噸數をも含む)

て、凡そ三倍す。以下露西亞、米國等は、圖の如し。

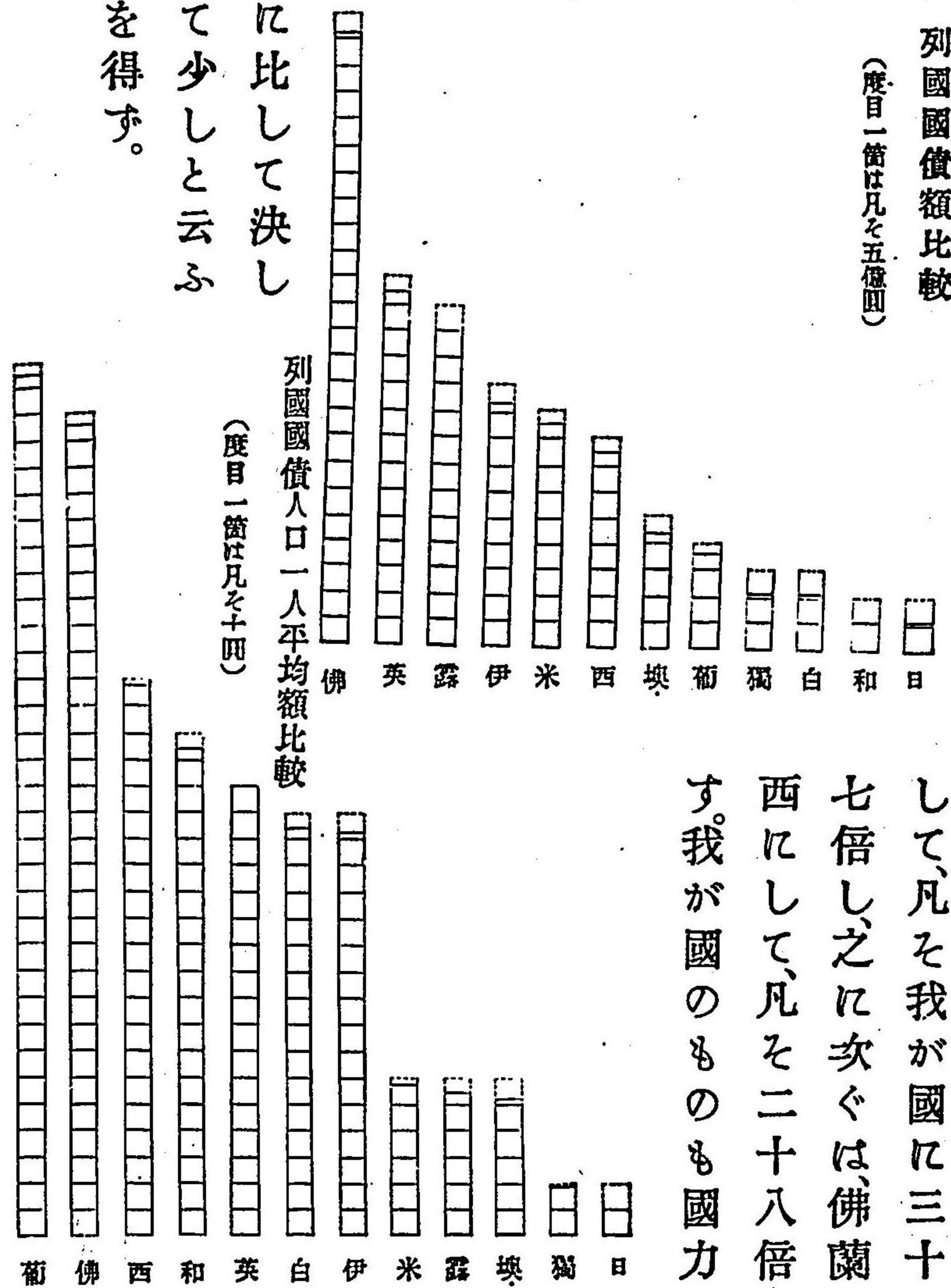
第五章 財政の比較

近來世界に於ける開明諸國の財政は、軍備の擴大、鐵道の敷設等種々新事業の經營に由りて、年々膨張し、其の歳入、歳出の増加著しく、是と共に、國債も益増加せり。





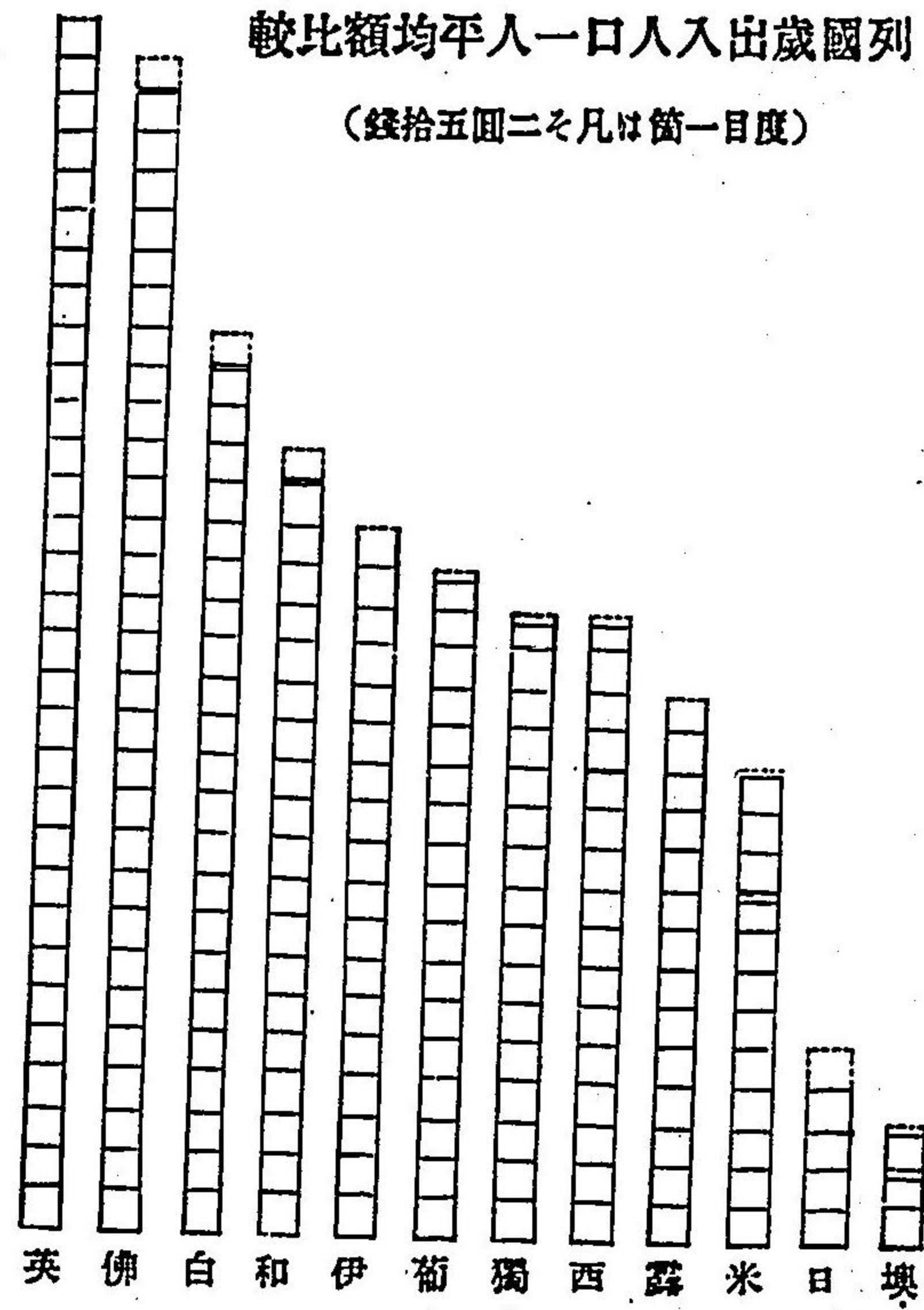
に比して決して少しと云ふを得ず。



して、凡そ我が國に三十  
七倍し、之に次ぐは、佛蘭  
西にして、凡そ二十八倍  
す。我が國のものも國力

歳出入の總額に於ては、露西亞第一にして、凡そ我が國に十倍し、英吉利之に次ぎて、凡そ六倍す。又人口一人に對する額の最も大なるは英吉利にして、佛蘭西之に次ぎ、共に凡そ我が國に七倍す。

列國歳出入人口一人平均額比較  
(度目一箇は凡そ二圓五拾錢)





### 第六章 日本と列國との關係

朝鮮及び支那は我が隣國なるを以て、種々の方面に於て、最も我と密接の關係を有するは、言ふに及ばず。露領西比利亞は、僅に一衣帶水を隔つるのみならず、有名なる西比利亞鐵道の終點は、我が對岸に在るを以て、軍事、貿易及び交通上、頗る注目すべき價値あり。米國は、維新前我が國を導きて、開港せしめたる國にして、其の位置、太平洋を隔てて、我と相對し、我が貿易上、輸出價格最も多く、加ふるに近年布哇及び馬來群島の一部を占領するに至りたれば、相互の關係、益深きに至れり。英國は、貿易上、我が輸入國の第一位を占め、又其の領地なる香港、印度、濠洲、加奈太等は、交通上にも貿易上にも我が國と多大の關係を有し、中にも香港は我が貿易上輸出價格の多きこと米國に次げり。而して英吉利は、亞細亞東部に

於て、我と利害を同じくするを以て、近時共に條約を結びて協心同力することを盟ひたり。  
獨逸及び佛蘭西は、此等の諸國に次ぎ、獨逸は、貿易上、我が輸出國の第四に位し、佛蘭西は、輸入國の第四に位す。  
以上は、我が國との關係上、重要な諸國たり。此の外締盟諸國との間に、多少の關係あるは、勿論なり。

#### 締盟諸國

- |             |         |     |        |        |      |
|-------------|---------|-----|--------|--------|------|
| 亞米利加合衆國(米國) | 英吉利     | 露西亞 | 和蘭     | 佛蘭西    | 葡    |
| 獨逸          | 瑞西      | 白耳義 | 伊太利    | 丁抹     | 瑞典諾威 |
| 西班牙         | 埃地利、匈牙利 | ヘル  | 朝鮮     | 暹羅     | 墨西哥  |
| 支那          | ブラジル    | 希臘  | コンゴ自由國 | アルヘンチナ |      |

### 第七章 世界に於ける日本帝國の位置

顧みて維新以前に至れば、當時に於ける我が國の位置は、頗



る憐むべきものなりき。世界各國中、我が國が何れに位し、如何なる國體なるかを熟知するもの稀なるのみならず、之を知るものも、唯野蠻未開の小國として、侮蔑したりき。爾來茲に三十餘年、國運日に振ひ、國威月に揚り、今や將に世界に於ける最も開明の諸國と列を同じくせんとす。其の位置の變化の著大なること、列國の驚嘆する所たり。而して又西比利亞鐵道の完成、目睫に迫り、中米の運河開鑿事業、略緒に就けりといふ。此等二大工事、完成の日には、世界の交通、貿易及び軍事上等に於て、我が國は益有望の位置に立つに至らん。さらば我が國民は今日の小成に安んぜずして、將來一層努力勤勉するときは、歐米の先進諸國を凌駕することも、決して難事に非ざるべし。

我が國が斯かる有望の位置に立てるは頗る喜ぶべきこと

なるも、眺つて亞細亞の現状を觀察すれば大に寒心すべきものあり、北部、西部、南部地方は、復言ふに忍びず、然らば東部地方は如何ん。今や支那は、國運日に衰退し、列國の權力平均の爲め、僅に其の吞噬を免れ、朝鮮は、殆ど全く我が國の威力に頼りて、獨立の體面を維持するに過ぎず。若し夫前陳せる二大工事完成して、世界の交通、貿易等、益敏活に赴かんには、頓て列國の益容易に力を極東に伸張して、鷗鼻の欲を逞しうするを得る時ならざるを知らんや。

然らば則ち速かに此等隣國の迷夢を呼び覺し、之を扶掖し、之を啓導して、獨立の實を全うせしめ、將に來らんとする禍亂を平和に轉ずる準備をなすは、實に我が帝國の位置に附隨する目下の一大職責たり。



## 列 國 國 勢

項 目 國 名	面 積		人 口		輸 出	輸 入	鐵 道	電 線
	本 國	領 地	本 國	領 地				
日 本	27.0	3.3	48.00	3.00	20	29	4.1	74.7
朝 鮮	14.0		5.40		5.0	1	.30	
支 那	710.0		400.00		20	27	2.3	14.0
暹 羅	30.0		5.00		3	2.5	.2	1.8
露 西 亞	350.0	1.100.0	120.00	23.00	72	60	34.7	290.0
瑞 諾	50.0		7.40		28	43	7.8	42.0
丁 抹	2.6	14.0	2.50	11	20	28	1.8	8.6
獨 逸	34.0	170.0	56.00	15.00	2.27	2.90	31.4	283.7
奧 匈	40.0		45.00		78	68	22.0	170.0
瑞 西	2.6		3.30		34	46	2.7	22.3
佛 蘭 西	34.0	660.0	38.00	52.00	1.60	1.82	33.7	330.0
和 蘭	2.1	130.0	5.20	35.00	1.37	1.60	1.7	14.0
白 耳 義	1.9		6.70		74	86	2.8	46.0
英 吉 利	20.0	1.900.0	40.00	400.00	3.43	5.15	21.8	347.6
西 班 牙	33.0	41.0	18.00	15	28	33	8.0	46.6
葡 萄 牙	6.0	134.0	5.40	9.20	7	13	1.4	11.4
伊 太 利	18.0	30.0	30.00	.85	51	65	9.8	102.0
希 臘	4.2		2.40		3.7	5.2	.6	6.2
土 耳 其	160.0	175.0	6.00	19.00	14	22	1.2	38.4
米 國	590.0	26.0	76.00	10.00	2.90	1.65	195.0	1,000.0
墨 西 哥	130.0		13.00		15	13	9.6	* 42.8
ベ ル ー	120.0		4.60		4.3	2.2	1.0	* 1.9
チ ー レ	45.0		2.70		11	9	2.9	* 14.6
アルヘンチナ	190.0		4.80		30	22	10.0	58.6
ブラジル	540.0		14.00		33	19	8.7	25.2
コンゴ自由國	15.00		30.00		1.8	.9	2.5	8

列國國勢一覽表

## 一 覽 表

商 船	陸 軍	海 軍	歲 出	歲 入	國 債			
						船 數	噸 數	平 時
5.4	917	125	600	187	259	27	27	52
		6				.65	.65	
				18	36	11	11	57
		5	12	22		2	2	
2.9	601	1.100	4.575	251	574	2.04	2.04	6.50
9.7	2,000	68		55	89	12	12	27
3.8	408	9.7	61	19	42	4	4	11
3.9	1,941	580	3,000	241	475	1.10	1.10	1.10
12.5	314	360	1,870	50	166	15	15	2.20
		151	518			4.1	3.9	3.4
15.5	958	600	4,350	500	825	1.39	1.39	11.64
6	348	27	68	67	133	12	12	90
.73	112	51	180			19	19	1.03
35.0	10,751	230	430	561	1,825	1.78	1.27	6.73
11.0	542	117	183	39	100	34	36	3.73
3	95	33	175	29	81	12	11	1.76
6.1	873	260	3,300	230	345	70	70	4.80
1.0	299	21	82	18	31	4.5	4.6	
2.4	197	700	1,500	25	57	18	18	1.54
24.0	5,524	80	106	157	583	1.10	1.18	4.30
.67	13	34	146	17	3	6.4	6.4	35
.60	285	3		4		1.3	1.3	34
1.4	68	18		14	44	10	7	21
10.0	6,939	29	470	18	56	14	13	98
6	171	15	20	26	44	74	74	1.98
		130				1.2	1.1	

は一般噸數に千噸の電線網に墨印を用いたるは線條の延長に多しして線路の延長なり○空欄は未詳又は皆無のものとする。  
里、人口は一萬人、輸出入、歲出入、國債は共に一千萬圓、鐵道、電線は百哩、商船の噸數は百噸、噸數は千噸、陸軍は千人、海軍の艦數  
本表は主に最近のステイツマンズ・イヤーブックに依り各項に就きて其噸數を記載したるものとす○各項の單位は下の如し、面積は百万



地理教科書卷四終

明治三十六年二月十日印刷  
明治三十六年二月十三日發行

地理教科書

定價  
卷二 金四拾五錢  
卷三 金四拾五錢  
卷四 金四拾五錢

著者 脇水鐵五郎

發行者兼印刷者 金港堂書籍株式會社  
東京市日本橋區本町三丁目十七番地

代表者 右社長 原亮一郎  
東京市下谷區龍泉寺町四百十四番地

印刷所 合資東京國文社  
東京市京橋區宗十郎町十五番地

賣捌所 各府縣特約販賣所

不許複製



內國地理小誌 新保磐次氏著 全價八拾五錢冊

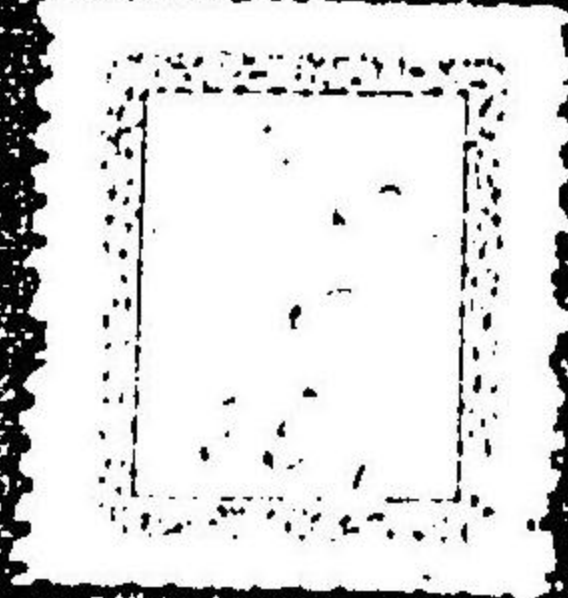
外國地理小誌 新保磐次氏著 全價九拾錢冊

日本中地理 文學士喜田貞吉氏著 全價五拾五錢冊 附圖五拾

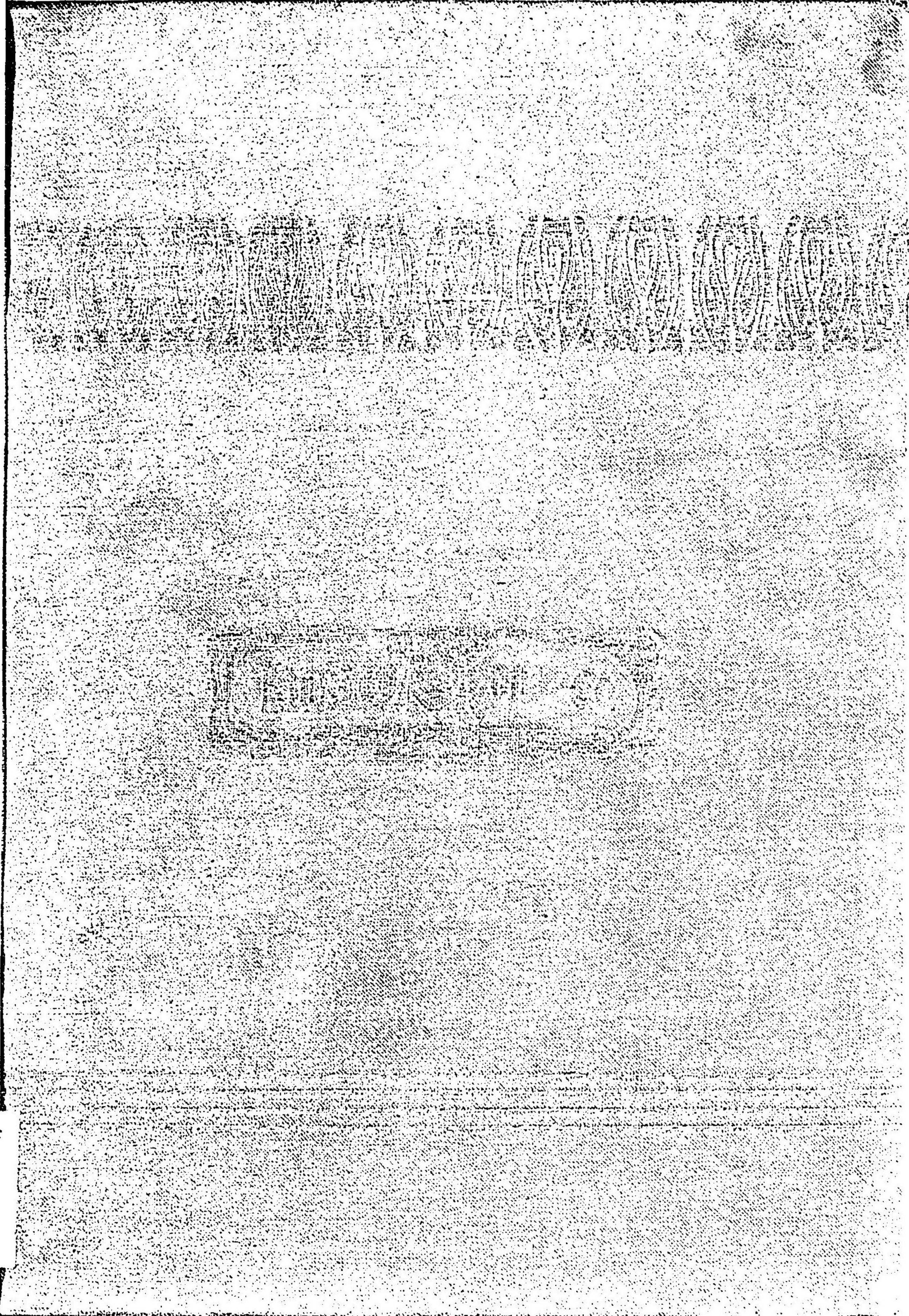
外國中地理 文學士幸田成友氏著 全價壹圓冊

地文學教科書 理學士山崎直方氏著 全價八拾錢冊











86

351



